

「アートベース百島に対する百島住民の意識調査」

(事前事後調査の比較)

2014年5月

中島正博・金谷信子・高橋広雅・瀋俊毅
広島市立大学国際学部地域と芸術活動研究会

目 次

はしがき	1
I. アートベース百島とまちづくり	
1. まちづくりとアートプロジェクト	3
2. 第1回アートベース百島	4
3. 第2回アートベース百島	5
4. アートベース百島の会期時の入館者	6
5. 百島での聞き取り調査	9
6. まちづくりの最近の動向	11
7. 島の特性とまちづくり	12
II. アートベース百島（旧百島中学校の再利用を中心とする芸術活動） に関するアンケート調査結果と分析	
1. 調査の概要	14
2. 回答者の個人属性	16
3. 単純集計の結果	18
4. 相関分析	40
資料① アンケート票	59
資料② ART BASE 百島 開館記念展資料（2012年11月）	67
資料③ ART BASE 百島 2013・2014年企画展資料（2013年10月～11月）	73

はしがき

本報告書は、私達が広島県尾道市百島町で実施した、まちづくりのための住民意識調査の結果を纏めたものです。その意識調査とは、広島市立大学芸術学部現代表現の教員と学生達によって、百島町で行われている現代アートの活動（アートプロジェクト）に対する、住民の意識を実証的に探ろうとするものです。

そのために私達が採用した方法は、アートプロジェクトを実施する前のまちづくりに関する住民意識が、アートプロジェクトを実施した後どのように変わるか、それをアンケート調査によって明らかにする試みです。すなわちアートプロジェクトによる地域社会への影響を見るために、アートプロジェクトの実施前と実施後の住民意識の比較をしました。

百島町における同芸術学部現代表現の活動は種々ありますが、これまでに「アートベース百島」が開館して行われた現代アート作品の展覧会は、第1回の2012年11月と第2回の2013年10月と11月に実施されたものです。私達は最初の展覧会の実施前と2回目の展覧会の実施後に、上記の住民意識調査を行いました。展覧会前の2012年10月の意識調査の結果はすでに2013年4月に「事前報告書」として公表しました。本報告書は、2014年1月の2度目の意識調査の結果を踏まえて、アートプロジェクト実施の事前と事後の2回の意識調査の結果を比較して纏めたものです。

上記の調査を行い、本報告書を作成するために多くの方々のご協力を頂きました。アートベース百島による展覧会は、旧百島中学校と百島町内で行われました。尾道市の文化行政に関わることから、調査実施に際して尾道市教育委員会・教育総務部・文化振興課の了解を得て、百島町社会福祉協議会にアンケート調査実施への協力をお願いしました。アンケート調査実施に際して質問票の作成にご意見を頂き、質問票を配布し回収する作業をして頂きました。これらの作業の全体について、百島町社会福祉協議会の林信樹会長に多大なご協力を頂きました。さらに質問票の配布と回収には百島町の3区長と各区の班長の方々、調査票の回答には住民の方々のご協力を頂きました。

また私達の聞き取り調査のための質問や会話に応じて下さった百島町住民の方々、特に「百島活性化の会」の方々のご協力を頂きました。以上の百島町の方々に改めて心からお礼を申し上げます。

最後に、アートベース百島を立ち上げられた、広島市立大学芸術学部の柳幸典准教

授と、事業の運営を中心になって支えてこられた同学部の協働者の方々に対して、百島町における芸術・文化活動のご尽力を称え、私達の調査にも協力して下さったことに感謝致します。

なお本研究は JSPS 科研費 23530675 の助成を得たものです。記して謝意を表します。

2014年4月25日

広島市立大学国際学部 中島正博・金谷信子・高橋広雅、瀧俊毅

I アートベース百島とまちづくり

1. まちづくりとアートプロジェクト

まちづくりには様々な必要や目的がある。過疎高齢化している地域では、特に福祉の観点からのまちづくりが必要とされている。本研究は過疎高齢化が進む離島を対象にして、まちづくりを期待するアートプロジェクトの効果を考察することである。事例として取りあげるのは広島県尾道市百島町である。

この島で芸術活動が展開されている。広島市立大学芸術学部現代表現の教員と学生が中心になり始めた芸術活動である。アート作品の主な展示会場は「アートベース百島」である。アートベース百島は旧百島中学校の建物を利用した芸術活動のための施設である。このアートベース百島での展示に加えて、百島で空き家になった民家に作品群を展示することも同時に行われた。

この芸術活動の舞台である百島町は過疎化しており、2014年1月の人口は553人(尾道市住民基本台帳2014)である。百島の人口は2,889人(1950年)まで増加したが、以後減少し続けて今日に至っている。これまでの傾向が続くならば、約20年後の2035年には261人になると推計されている(常石～尾道航路改善協議会2012)。百島の島民は過疎化を憂慮し、UターンやIターンにより人口の減少傾向が緩和されることや、島外の人びとが島を訪れて島に賑わいが生まれることを望んでいる。そのようなまちづくりの効果がアートベース百島にも期待されている。

アートベース百島の展示会に先立って、アートベース百島に対する百島住民の意識調査を、アンケート質問票によって筆者たちは2012年10月6日から同22日にかけて行った。まちづくりとの関連で先ず住民の芸術活動に関する意識を把握しておくためであった。アートベース百島の作品展示を実施して、百島住民の意識がどのように変化するか、あるいはしないかを考察するためには、展示会の事前と事後の比較をすることが必要であると考えたのである¹。

この意識調査の後、第1回のアートベース百島の作品展が2012年11月4日から11月24日まで開催された。さらに第2回の作品展が2013年10月12日から11月30日

¹ この事前調査の結果はすでに2013年4月に『アートベース百島に対する百島住民の意識調査(事前調査報告書)』、2013年11月に『旧百島中学校における芸術活動に関する島民の意識調査から—アートプロジェクトを用いた地域再生の可能性と課題』として発表した。

まで開催された。これら 2 回の作品展覧会の後、百島住民の意識の変化を把握するべく、2014 年 1 月 10 日から同 20 日まで、2 度目の百島住民の意識調査を行った。アンケート調査の方法は第 1 回と同じ方法で行った²。この報告書は、アートベース百島によるまちづくりへの貢献を、事前と事後の意識調査の比較によって考察するものである。

2. 第 1 回アートベース百島

第 1 回の展覧会は「UTOPIA—何処にもない場所—」をテーマに開催された。アートベース百島の初公開である 11 月 4 日は「防災の日」であり、午前 10 時から百島全島をあげて防災訓練が行われた。全島の住民が訓練のために動き、多くの住民が安否報告のためにアートベース百島のグラウンドに集合した。全住民が動いたその勢いで、アートベース百島に住民を呼び込みたいとの期待もあった。防災訓練では、尾道市長が来島し陣頭指揮をとり、津波が起きたとの想定で全住民の安否確認が行われたのである。対象の全住民 531 人の内、数人のみが確認できなかった事実は島の緊密な人間関係の特徴を示している。また防災に関する注意事項や百島診療所の医師による応急処置の指導が住民に行われた。

その後、アートベース百島のオープニングセレモニーが始まり、柳幸典ディレクター、広島市立大学学長、尾道市長、社会福祉協議会会長などのスピーチの後、さらに「百島活性化の会」のバンド演奏も華々しくオープニングを盛り立てた。町内行事の防災訓練の後、アートベース百島のオープニングが続いて行われたことは、展覧会への参加を促進した可能性が高いと思われる。



写真 1 アートベース百島のオープニングセレモニーと参加者

² 調査方法は本報告書のⅡの 1. 調査の概要で説明している。



写真2 「百島活性化の会」のメンバーによるバンド演奏

当日の住民からは、例えば「63年間百島で生活をしているが、今日は一番輝いた日ではないか。多くの島民は興奮して帰ったのではないか」、とか「20年間島外に住んで、20年間島に住んでいるが、これほど賑やかなのは初めて」というような声が聞かれた。但しこのオープニングに参加した住民は、このイベントに関心を持った住民であり、関心を持たなかった住民がいたことにも留意したい。

3. 第2回アートベース百島

第2回のイベントは「100のアイデア、あしたの島。—アートはより良い社会のために何ができるのか?—」をテーマに開催された。第2回の初日は特にセレモニー的な行事はなかったが、作家たちが紹介され、作家は自分たちの作品の思いをそれぞれに語った。また柳ディレクターはアートベースの中の作品と百島の各所に設置された作品を参加者に説明して回った。



写真3 作家の紹介とスピーチ

4. アートベース百島の会期時の入館者

百島のまちづくりのためには、島外から多くの人びとが百島を訪問し、UターンやIターンが実現することを住民は切に望んでいる。その意味で何人くらいの島外者がアートベース百島のために来島したのか推定することは重要である。島内の人達の参加状況は本報告書Ⅱに詳しく述べてある。アートベース第1回のオープニングの日、尾道からの客船は満員であった。通勤時以外の時間帯の客船に乗って何度も百島を訪問してきた筆者は、船上に多くの客を見て驚いた³。アートベースの入館の際に、島外者か島内住民か区別していないので、島外からの入館者を正確に推定することは容易ではないが、それを推定することは可能である。

第一に主催者の持っているデータが推定の材料になる。主催者によれば、第1回2012年の会期中（11月3日から11月24日）の入館者は1,536人であった。第2回2013年の会期中（10月12日から11月30日）の入館者は634人であった。さらに推定による島外と島内の入館者の比率は、第1回展覧会は推定でそれぞれ70%と30%である。第2回展覧会はそれぞれ80%と20%である。

第二に船で百島に上陸した人数からの推定が可能である。尾道市建設部港湾振興課では、フェリーポートおよび客船から百島福田港に下船した客と車の数を集計している。会期が10月から11月に亘っているため、会期のその2か月と、比較のために2011年

³ 通勤時以外の客船の客はいつも数人程度であった。

の前年の同時期の間の降船客数⁴のデータを入手した。それを表1に示す。但しこの下船者は定期券使用者を含んでいるため、百島住民の下船者も含んでいる。

表1 百島で下船した客数

	10月	11月		10月	11月		10月	11月
2011年	5678	5541	2012年	5803	6407	2013年	5611	5700
	537	477		471	515		404	453
2011年との比較			増加	125	866	増加	-67	159

出典：尾道市建設部港湾振興課

表2 百島で下船した客数

	10月	11月		10月	11月		10月	11月
2010年	4,346	4,059	2012年	4,233	4,766	2013年	3,838	3,935
2011年	3,675	4,043						

出典：備後商船

表2は島外参加者の推定の確度をあげるために、船を運航している備後商船から入手したものであり、百島で下船した客数である。定期券利用者は含まれていない。客数は表1よりも数百人少なくなっている。またイベントが行われた2012年と2013年の10月と11月に百島に上陸した人数を、2011年のそれぞれの月の下船者と比較した。参考のために2010年の人数も表に示した。

表1によれば、アートベース百島へ参加したかどうか不確実であるが、2012年の第1回のイベントが行われた11月には、2011年11月と比較して866人の大きな増加が見られ、これはアートベース百島への参加者数を反映していると考えられる。しかし2013年の第2回のイベントが行われた10月と11月を見ると、10月には逆に下船者が

⁴ 前年同月の降船者数を基準にして、2012年と2013年の増加数をアートベース百島への参加者と仮定することは、厳密な意味では問題があるが、有力な指標とすることは可能であろう。

減っており、アートベース百島への参加者数が反映されていない。10月には現実に島外からの参加者がいたにも関わらず、下船者数のデータに明確に表れるほど、参加者が多くなかったことを示していると思われる。また2011年に比較して10月の下船者数がなんらかの理由で減少したために、アートベース百島への参加者が明確な増加として表れなかったのではないかとと思われる。11月の入館者は2011年同月と比較して増加しているものの（156人）、それほど多くなかったことを示している。10月と同様の理由があると思われる。乗用車でアートベース百島へ行く客は非常に少ないと考えられる⁵。因みに参加者数が多かった第1回2012年の乗用車の増減は大きくない。さらに第2回2013年は2011年に比較して乗用車も減少している。従って乗用車で参加する客は存在していても無視できる程度であろう。



写真4 アートベース百島へ向けて下船

次に百島住民の参加者数について推定してみる。第2回目のアンケート調査の結果によれば島の人口の約46%が第1回目の展覧会に参加している。すなわち島人口553人の46%の254人が計算上は第1回目に参加しており、その90%はアートベース百島の建物の作品を鑑賞している。さらに第2回目の展覧会に参加したのは島の人口の約25%であり計算上は138人である。第2回の参加者が少なかったことは、アンケート調査

⁵ 港とアートベース百島の会場は距離的に近く乗用車でゆくメリットはない。また島には自転車が用意されており、建物の外の作品を鑑賞するためには車よりも自転車が便利である。

実施後に筆者が行った島民に対する聞き取り調査で明らかである。

先に第一に述べたように、島外から第2回展覧会へ参加した客の減少と、ここに述べたアンケート調査から判明した島内住民の第2回展覧会への減少は一致している。アンケート調査の限界⁶のために推定人数に誤差があることは認識しておかなければならない。島の人への聞き取りにより判明した、第2回展覧会への減少の理由は後述する。

5. 百島での聞き取り調査

アンケート調査の結果でアートベース百島への入館者数の減少が判明した原因と、このイベントに関する島民の感想を把握するために、筆者は百島を訪問して主に百島福田港の周辺⁷で島民への聞き取り調査を2014年2月28日に行なった。その結果を以下に示す。

- ・アートベースでまちが賑やかになることを歓迎する。(殆どの人の感想) イベントが盛り上がればよい。
- ・島民が減少する状況の中で、百島を知ってもらえることは良い。若い人が買い物に来てくれるのもありがたい。(60代男性)
- ・来島者が増えることが一番ありがたい。(殆どの人)
- ・アートベースに対する島の人々の熱がさめたようだ。(60代男性)
- ・第2回のイベントでは事前に展覧会のPRができていなかったようだ(これは殆どの人から異口同音の感想)。
- ・1回目の展覧会は良かったが2回目は見なかった。見た他人からは話を聞いた。2回目は宣伝不足だった。広告を少し見ただけ。チラシだけでなく、マイクを通して有線放送で島内に宣伝するとよい。若い人がお年寄りを連れてゆくことがなかったため、お年寄りがあまり行かなかった。人々が誘い合ってゆくことがなかった。(50代・女性)
- ・アートベースのスタッフの人を見ることはあるが交流はない。話もしない。(50代・

⁶ 皆悉調査ではなく1世帯が1部のアンケートの質問に回答する形式であり、世帯の誰がアンケート票に回答したか(参加した人か、参加しなかった人か)は不明である。ちなみに世帯人数は平均1.7人である。

⁷ 福田港には船に乗る住民が集まる場所であるために、聞き取り対象者として移動性の高い人たちに偏るバイアスがあるかもしれない。

女性)

- ・第2回では島外の客が少なかったのではないかと(50代男性)。
- ・目に見えない面で島の活性化になる。それが形として表れれば、さらに効果があると評価できる。1回目は全部みた。2回目は病気で見るができなかったが、一部見させてもらった。応援できることがあれば、応援させてもらいたい。(60代男性)
- ・アートベースには行ったことはない。島外から百島に仕事で来ている。百島の人以外は知らないと思う(島外女性・40代)
- ・いろいろなものを見るのが好きだから、アートベースには毎年行っている。あんな作品がよくできたと感心する。田舎でなく町だったらすごくはやると思う。他人にモノをあげるのが好きだから、本土からのお客さんにみかんをあげた。アートベースではスタッフの人が親切だ。広島から住民票を移してきているスタッフと付き合っている(ご飯を作ったりしている)。(80代・女性)
- ・アートベースと家が近いので学生と顔を合わせ親しみがある。島にいて賑やかにしてくれるとよい。夜でも学生の家で灯がついているのがよい。若い人が出たり入ったりすると賑やかでよい。野菜なんかを作ってアートベースの人と付き合っている。最初は物珍しさもあって展覧会に行ったが、最近はあまり大した作品を創っていない。2年目から衰えている。(50代女性)
- ・島外に居住している百島出身者としては展覧会10月から11月という時期が良くない。最も良い時期は正月、ゴールデンウィーク、盆である。帰省者で島の人口が非常に多くなる時である。孫をお爺さん・お婆さんに預けて見に来る気になる。春休みや夏休みで帰省する時には子供と一緒に鑑賞できる。他にも帰省することはあるが忙しくてアートベースに足を運ぶ時間がない。(40代男性)
- ・アートベースの活動が始まって4年目になるが、人が少なくなっているのではないかと。農業をする人が減って農協に出荷しない人が多い。お年寄りには収穫物は重く大変。Uターンで帰ってくればよいがその実態もあまりない。島の人口は550人位だが実際に住んでいるのは350人位くらいしかいない。入院したり老人ホームへ入ったりしている人が多い。(50代男性)
- ・第1回の展覧会には行ったが2度目は行かなかった。第1回は無料で見ることができたので多くの人が展覧会に行った。今年は入場料が必要だったようだが、この小さな島でお金をとるようなことをしたら島民は行きません。無料で行ければ島の賑

わいとして歓迎したい。寒い時期ではなく 5 月の連休の頃だったら年寄りも喜んでゆく。まちづくりのために役立つと思う。私は泊に住んでいるが、泊にも学生が空き家に住んで、学生のお世話をする人がいた。(70 代女性)

- ・バスの運転手をしているが、バスの乗客には作品の感想をいつも聞くことにしている。第 1 回の時は 8 割くらいの方が良かったという感想だったが、第 2 回目の時には良かったという感想は減った。作品の意味の分からない人が多い。良いか悪いか分からない。

(60 代男性)

- ・アートベースには一度も行ったことがない。関心がない。泊地区 (70 代女性)

これらの島の住民の意識は、第 2 回のアンケート調査から読み取れるだろうか。アンケート調査のみでなく、直接住民と会って、自由に感想を聞くことも必要である。以上の住民の感想は、アートプロジェクトを活用した今後のまちづくりの参考になるのではないだろうか。

入館料について住民の意見があったので、主催者から確認したことを加えておく。

- ① 2012 年度：住民の入館はオープニングのみ無料にする方針であったが、配布したチラシに「オープニングのみ」との記載をしていなかったため、会期中チラシを持参した住民の入館は無料とした。
- ② 2013 年度：アートベース百島の T シャツを着て来た人は無料、それ以外の方は有料にした。但し、物資の支援など日常お世話になっている百島住民の方々や高校生以下は招待とした。

6. まちづくりの最近の動向

アートベース百島によるまちづくりの効果は、後述Ⅱのアンケート調査の結果や先に紹介した島民に対する聞き取り調査により窺うことができる。百島のまちづくりに関連すると思われる最近の動向について以下に述べる。

「百島活性の会」の主催により子供会と一緒に、2014 年 4 月 6 日に花見を兼ねてアートベースの作品の説明をしながら、子供と住民が 70 人参加して「歩け歩け運動」を実施した。アートベースの説明をすると作品の意味が分かりやすいし、百島にある観光資

源を有効に活用する可能性も開けるだろう。たとえば島の住民が作品の良さを説明できれば、島外からの鑑賞者を増やす力にもなるだろう。

第2に改正離島振興法の施行（2013年4月）にともない、百島では本土よりもガソリン代が15円/リットル安くなった。ガソリン購入を本土より優遇することにより、経済的・距離的に不利な状況にある過疎高齢化する離島の人たちが、法律により支援されていると感じるであろう。改正離島振興法をまちづくりの手段として、さらに主体的に活用する可能性を追求すべきである。

最近、救急体制が整い高齢者に安心感を与えることに貢献している。百島町に救急車を備えることができたため、救急患者が発生した際には患者の自宅まで迎えに行き、港から救急船により本土の病院に搬送する体制が整ったのである。以前は乗用車を所有し運転できる場合のみ、そのような迅速な救急事態に対応することができた。これは「百島活性化の会」が要望書を出して実現できたものである。

観光行事として「瀬戸内しまのわ2014」が、2014年3月21日から2014年10月26日に亘って、広島県と愛媛県の島しょ部および臨海部において実施される。その中には「秋の島フェスタ尾道」と銘打って、9月にはアートベース百島でも作品の制作・展示会を開催する予定である⁸。

今後もまちづくりに利用できる機会をとらえて、積極的にまちづくりに取り込んでゆくことが望まれる。

7. 島の特性とまちづくり

百島は本土と橋で繋がっていないために「離島」である。離島の特徴は一般的にコミュニティ意識が強く、島の住民はいわば一つの大きな家族のような一体感により繋がっている。強いコミュニティ意識の具体的な表れとして、離島の人には家にカギをかけないことが多い。但し島の住民の間あるいは日本に多くある離島の間には、その意識には強弱の差があるのは自然であろう。また本土と橋で繋がらない方が良いと考える百島の住民は多い。もし橋で繋がると、百島のコミュニティ意識が崩壊するのではないかと危惧するのである。

これは離島と本土の人びとの価値観に差異があることを示している。すなわち一般

⁸ 中国新聞（2013年4月17日付）には「ART BASE 百島など市内のアートスペースを活用して作品の制作・展示会を開く」と紹介されている。

に現代文明は「利便性」を追求しており、利便性の観点からは橋を架ける方が良いのだが、橋の利便性よりもコミュニティの一体性を大事にする価値観が強いのであろう。島の文化を理解するためにはこのような価値観の差異は大切である。

しかしながらそのような百島のコミュニティ意識に変化の兆候が表れている。コミュニティ意識が希薄化している可能性がある。その例として、家族葬が百島で増加していると言われている⁹。コミュニティの近隣の人びとの相互扶助により葬儀が行われるのが一般的であったが、それがあまり見られなくなったようである。

このようなコミュニティ意識の希薄化を危惧する島の住民たちにより、島全体の盆踊りを始めようという考えが生まれている。現在は泊地区だけの盆踊りはあるが、福田地区と本村地区では盆踊りがないのである。島全体の盆踊りをしたい、という百島住民の意識は第2回のアンケート調査に表れている。百島住民も全体としてコミュニティ意識の希薄化を危惧しているのかもしれない。

百島のまちづくりに際しては、百島のコミュニティの変化なども踏まえながら、「島の幸福」を実現するべく、島の社会に相応しいまちづくりが求められているのではないだろうか。一般に人間関係が希薄化した本土の人びとの価値観と同じではないからである。アートベース百島もその方向で発展することが望まれる。

⁹ 2013年2月28日の聞き取りの際に、最近葬式を島で見ないと住民が話していた。

Ⅱ アートベース百島に関するアンケート調査結果と分析

1. 調査の概要

本調査は、「アートベース百島（旧百島中学校の再利用を中心とする芸術活動）」に関して、百島の住民が①鑑賞した程度、②事業・作品に対する評価、③本事業に参加・協力した内容、④人的交流の広がりなどを明らかにすることを主な目的として実施した。

調査の実施期間は2014年1月10日から1月20日である。調査票は百島の自治会を通して、社会福祉協議会会長、区長、班長、各戸へという経路により百島に住んでいる全ての世帯（290世帯、1世帯1通）に配布された。回収部数は224通で、そのうち有効回答数は222通（全体の99.1%）であった。

なお本調査は、2012年11月にアートベース百島がオープンした前後の百島の住民の意識の変化を把握するために企画された第1回調査（事前調査）と第2回調査（事後調査）のうちの後者に当る¹。このため以下では、第1回調査（事前調査）と第2回調査（事後調査）の比較を含めて分析を行う。

本調査票は4部構成である。第1部は住民のアートベース百島に対する関与や評価に関わる設問であり、鑑賞の程度、情報入手の経路、芸術活動・作品に対する感想、芸術活動がもたらした成果、芸術活動に対する参加・協力、作家・学生・観客との交流、協力の意向について質問した。具体的な質問内容は次の通りである。

- アートベース百島の展覧会を見たか。
- 作品のうちどこの展示を見たか。
- アートベース百島を何によって知ったか。
- この芸術活動がおもしろかったか。
- この芸術活動あるいは芸術作品にどのような感想を持ったか。
- 芸術活動によりどのような成果があったと思うか。
- この芸術活動に参加・協力したか。参加はどのような方法だったか。
- 芸術活動の作家・学生・島外の観客との交流はあったか。
- 仮に芸術活動に寄付をする場合、適当と考える金額に最も近いものはどれか。

¹第1回調査については、金谷、瀧、高橋、中島（2013）を参照。

第2部は普段の生活や付き合いなどに関わる設問であり、近隣や地域の人たちとの付き合いの程度、地域活動への参加の状態、地域で開催されるイベントの参加頻度、回答者の信頼度および幸福度などについて質問した。

なおここで付き合いや地域活動への参加の状態また信頼度に関して質問した理由は、近年コミュニティの維持・発展のためにはソーシャル・キャピタル（人々の間にある信頼、互酬性、ネットワークなどの基盤）が重要であるという考え方²が注目されていることから、アートベース百島の事業とこれらの要素の間にある関係を知りたいと考えたためである。また幸福度は経済的・物質的な豊かさとは異なる指標として近年注目されている指標であり、アートベース百島の事業と百島の島民が幸福と考える意識との関係を知りたいと考えたためである。具体的な質問内容は次の通りである。

- あなたと近隣・地域の人たちの付き合いはどの程度か。
- 地域活動（自治会、老人会、ボランティア団体、文化・音楽・趣味などのサークル団体、スポーツ・レクリエーション団体）の参加の有無と、どの程度参加しているか。
- 普段、地域で開催されるイベントにはどの程度参加しているか。
- おおまかに言って、たいいてい人は信用できると思うか。（「とてもそう思う」を6点、「全くそう思わない」を0点として一つだけ選択）
- 今あなたはどの程度幸せであるか。（「とても幸せ」を6点、「とても不幸」を0点として一つだけ選択）

第3部は、アートベース百島の事業が実施された後の意識に関する設問であり、回答者に生じた変化、今後やってみたいと考えていること、島の活性化のための事業に対する考え、また現在の暮らし向きについて質問した。具体的な質問内容は次の通りである。

- 芸術活動の開催によってあなた自身に変化はあったか。（地域の人との日常的なつきあい、地域の人との協力、地域への愛着、島の将来について考えること、知り合いの数）
- アートベース百島の来場者や施設の運営に対して、今後やってみたいこと。
- 島の活性化のために、全島民が参加できるような行事（盆踊りや納涼会など）

² 代表的な文献としてパットナム(2006)など。

を実施することについてどう思うか。

- ▶ 全島民が参加できる行事が実施される場合、あなたはどのように協力できるか。
- ▶ 現在のあなたの暮らし向きについて、どのように感じているか。

第4部では、回答者の性別や年齢、住んでいる集落、世帯類型（一人暮らしや夫婦のみ、核家族、三世帯同居など）、出身、百島で住んでいる期間、職業、最終学歴などの個人属性について質問した。

2. 回答者の個人属性

回答者の個人属性は表 2-1 に示されているとおりである。回答割合は特に断りが無い限り無回答を除いたパーセンテージで示している。性別では「女性」の方が多かった（男性 35.7%対女性 64.3%）。年齢別では、60歳代～70歳代が 57.3%、80歳代以上が 27.5%であり、60才以上が全体の 84.9%を占めた。世帯類型は「一人暮らし」が 68人（39.1%）、「夫婦のみ」が 62人（35.6%）であり、高齢者の単身世帯と高齢者夫婦世帯が 8割近いことになる。

生まれ・暮らしに関しては、「百島で生まれ、暮らし」ている人が 81人（49.4%）と最も多く、次いで「Uターン」が 43人（26.2%）である。Uターンを含めると 7割以上の回答者が百島で生まれている。居住年数では、80人（65.6%）の回答者は「30年以上」百島に在住している。職業では、「無職」（71.6%）が最も多く、次いで「農業、漁業」（11.4%）、「建設業、製造業など」（5.7%）であった。回答者の居住地域は、概ね 3つの集落（本村地区・福田地区・泊地区）にほぼ均等に分布している。最終学歴は 75人（56.0%）が「高等学校まで」であった。

第1回調査と第2回調査の回答者の属性を比較すると、ほとんどの項目に関して統計的に有意な差はなかった。しかし性別に関しては、第2回調査の回答者の方が第1回調査の回答者より女性の割合が有意に多く、また居住年数に関しては、第1回調査の回答者の方が第2回調査の回答者より居住年数が有意に長いという相違があった。（詳細は別添資料を参照）こうした相違を踏まえた上で、以下の分析結果を見ていく必要があることを付記しておきたい。

<表 2-1> 回答者の個人属性 (無回答は除く)

質問	数	割合	質問	数	割合
性別			住んでいる集落		
男	61	35.7%	本村地区	54	28.6%
女	11	64.3%	福田地区	44	23.3%
計	17	100.0	泊地区	91	48.2%
			計	18	100.0
年齢			生まれ・暮らし		
20代～30代	3	1.8%	百島での生まれ・暮らし	81	49.4%
40代～50代	23	13.5%	百島出身だがUターンし	43	26.2%
60代～70代	98	57.3%	他所の出身で移ってきた	40	24.4%
80代以上	47	27.5%	計	16	100.0
計	17	100.0			
世帯			百島で住んでいる期間		
一人暮らし	68	39.1%	3年未満	2	1.6%
夫婦のみ	62	35.6%	3年～5年未満	5	4.1%
核家族(夫婦と未婚の子)	17	9.8%	5年～10年未満	10	8.2%
三世帯同居	4	2.3%	10年～20年未満	13	10.7%
その他	23	13.2%	20年～30年未満	12	9.8%
計	17	100.0	30年以上	80	65.6%
			計	12	100.0
職業			最終学歴		
農業、漁業	20	11.4%	高等学校まで	75	56.0%
建設業、製造業など	10	5.7%	短期大学・高等専門学校	14	10.5%
サービス業	6	3.4%	4年制大学	13	9.7%
教員、公務員、専門職など	0	0.0%	その他	32	23.9%
無職	12	71.6%	計	13	100.0
その他	14	8.0%			
計	17	100.0			

3. 単純集計の結果

(1)単純集計結果の概要

単純集計結果および第1回調査（事前調査）と第2回調査（事後調査）の比較に関する概要と考察は、以下のとおりである。

◆アートベース百島の鑑賞者

本調査の結果によると、2か年にわたり開催されたアートベース百島の鑑賞者は回答者の48.6%であり、百島の住民のおよそ半数が鑑賞したと推測される。第1回調査（事前調査）において「芸術活動に期待しているか」という質問に対する回答は、「大いに期待している」（21.5%）と「ある程度期待している」（40.5%）であり、期待していた人が全体の62%だったことと比較すると、本調査で示された鑑賞者の割合はやや少ない。ただ鑑賞者の割合は、第1回調査（事前調査）において「芸術作品の鑑賞や芸術・文化活動に関心」を持つと答えた回答の割合（49.0%）にほぼ相当する。

この鑑賞者の状況に関してはいろいろな考え方が出来るが、①日本人の平均的な美術鑑賞の行動者率（総務省「社会生活基本調査」）は20%未満であること、②現代アートが一般にはなじみが薄い芸術であること、③旧百島中学校が高齢者にアクセスしにくい高台にあることなどを考えると、かなりの数の百島住民がアートベース百島の作品を鑑賞したと解釈することもできるだろう。

◆芸術活動・作品に対する住民の評価

まず注目されるのは、作品鑑賞の有無に関わらずかなりの回答者が、アートベース百島の事業により「マスコミの取材などにより百島が広く知られるようになった」（38.7%）こと、また「島の人々の流れが変わった」（34.2%）ことを評価していることである。アートベース百島の事業を契機に、多くの住民が、瀬戸内の小島・百島の存在に島外の人々が注目し始めたことを実感していることがうかがわれる。

一方、鑑賞者の半数以上はこの芸術活動が「おもしろかった」（58.4%）と評価しているが、回答者全体では「これまでに見たことのない作品だった」（32.9%）また「よく分からなかった」（27.0%）という回答も多く、本事業は多くの百島の住民にとっては、なじみを持ちにくい内容であった可能性もある。現代アートを面白く感じる人と関心を持っていない人の間に、様々な意識の相違を生じさせたということもできる。

昨今全国的に広がりつつある現代アートを用いた地域活性化事業に際しては、現代アートには「地域の課題」や「地域の固有の価値」を発見したり、「地域への愛着」を増す潜在力があると想定されていることが多い³。アートベース百島の鑑賞者の25.0%は「島の文化の再発見・再生につながった」と評価しているが、これらの項目に対する評価は全般にあまり高くない。

◆アートベース百島の参加・協力者

このように百島の住民にとっては必ずしも親しみやすくない芸術を用いた事業であったにも関わらず、参加者・協力が55.2%に上ったことは評価に値する⁴。

第1回調査（事前調査）において「参加・協力したい」と答えた回答者の割合より、第2回調査（事後調査）において「参加・協力した」と答えた回答者の割合が少ないことについては、住民が事業前にアートベース百島に抱いていた期待と現実の事業に何らかの差があった可能性が考えられるが、一般的に社会貢献やボランティアの参加・協力を「考える」人の割合は、実際に社会貢献やボランティアの参加・協力「する人」の割合より高い傾向（回答者は、社会貢献などへの参加の意向を問われると、規範的な回答を選びがち）があることを考えると、本調査の結果は予想の範囲内ともいえる。

◆芸術家・学生・来島者との交流

アートベース百島の事業によって、百島の住民の間に様々な人との交流が増したことも注目される。アートベース百島の事業に参加・協力した人の場合は、作家、学生と何らかの形で交流した割合は40%を上回り、島内・島外の人との交流についても交流が増えた割合は38%となっている。アートベース百島の事業に参加・協力しなかった人の間にも、新しい人との交流が若干ながら波及しているという興味深い結果もあった。

◆普段の近隣・地域のつきあい、ネットワーク、信頼度、幸福度の変化

本調査の一つの目的は、アートベース百島の事業の開催前後における住民の変化、具体的には、近隣・地域の人とのつきあいの程度、ネットワーク、信頼度、幸福度などの客観的な指標がどう変化するかを明らかにすることであった。結果は、ネットワーク（地

³ 例えば北川(2005)など。

⁴ 無回答を入れた場合は34.7%になる。

域団体への参加の有無、参加の状態) および人々に対する信頼度に関しては、事業の開催前後において、統計的な差は確認されなかった。このことはアートベース百島の事業が短期的には住民のネットワークや信頼度には影響を与えなかったことを意味する。ただこうした変化を正確に把握するためには長期間にわたる観察が必要であり、本調査の結果は限界があることに留意が必要である。

アートベース百島の事業の開催前後の比較において、指標が上昇したのは幸福度であった。反対に指標が低下したのは、近隣・地域の人とのつきあいの程度であった。仮にアートベース百島の事業の開催により、住民の幸福度が上昇したのであれば非常に興味深い結果である⁵。近隣・地域の人とのつきあいの程度が低下したことについては、ここで直ちに原因を考察することは困難だが、あえていうなら人間関係が希薄な都市部の状況が年々地方にも及んでいることが考えられる。

なお第1回調査(事前調査)と第2回調査(事後調査)の回答者の属性はほとんど同じだったが、性別に関して第2回目は女性が多く、居住年数に関して第1回目の居住年数が長く、両者には統計的な有意差があった。後者については、30年以上の居住者数は1回目(163人)と比べて2回目(80人)は半減している。居住年数の長さや近隣付き合いの濃さの間には正の関係が推測されるため、本調査の結果から直ちに近隣付き合いが減ったと判断することは難しく、さらなる分析が必要である。

◆自身の変化について

上記のとおり、アートベース百島の事業の開催前後において、客観的に百島の住民の近隣・地域のつきあい、ネットワーク、信頼度、幸福度に変化が生じたかを把握することは困難であったが、住民が主観的に自身に変化が生じたと回答している割合は一定程度あったことは特筆に値する。例えば「島内・島外の知り合いが増えた」回答者の割合は合計で25.7%、また「地域の将来を考えることが増えた」回答者の割合は28.6%に上がった。「日常的な付き合いが増えた」、「地域の協力が増えた」、「地域への愛着が増えた」回答者も10%~10数%ながらあった。参加・協力者に限るとこれらの割合はさらに増える。こうした変化を感じた人の割合は大きくはないが、アートベース百島の事業が

⁵ 幸福度上昇の主因は、1回目と比べて女性回答者の割合が増えたためであると考えられる。男性と女性では女性の方が幸福度が高いことが多くの研究で報告されている。例えば宍戸(2007)、佐野・大竹(2007)を参照。

存在しなければ生まれなかった変化であり、小さいながら島内外の人々の交流・つながりや地域への愛着に、変化が芽生えつつあることに注目したい。

◆今後取り組みたいこと

アートベース百島の観客や運営などに関して、何かしたいと答えた人が 27%いるということも注目される。抱負を述べているだけの可能性もあるが、社会の注目を浴び、来島者が増えることで、停滞していた島において、何かしようと思いだめた人がこれだけ出てきたことは、アートベース百島のインパクトの表れと評価できよう。

(2) アートベース百島に対する関与と評価

「アートベース百島の展覧会を見たか」を質問した結果は、「1回目も2回目も見た」は51人(23.0%)、「1回目だけ見た」は52人(23.4%)、「2回目だけ見た」は5人(2.3%)であり、1回以上見た回答者は計108人(48.6%)であった。百島の住民のおよそ半数はアートベース百島の展覧会を鑑賞したと考えられる。また1回目を見た回答者は103人(46.4%)だったのに対して、2回目を見た回答者は57人(25.7%)と少なかった。
 <表 3-1>

表 3-1 アートベース百島（旧百島中学校の再利用を中心とする芸術活動）の鑑賞状況

	回答数	パーセンテージ	参考	
1回目（昨年）も2回目（今年）も見た	51	23.0%	108	48.6%
1回目（昨年）だけ見た	52	23.4%		
2回目（今年）だけ見た	5	2.3%		
2回とも見ていない	74	33.3%	74	33.3%
無回答	40	18.0%	40	18.0%
合計	222	100.0%	222	100.0%

「作品のうちどこの展示を見ましたか」を質問した結果は、1回目の展覧会に関しては、旧百島中学校(90.7%)、周辺地域(64.8%)であり、2回目の展覧会に関しては、旧百島中学校(36.1%)、周辺地域(40.7%)であった。1回目の展覧会ではほとんどの観客が旧百島中学校の作品を見たのに対して、2回目の展覧会では旧百島中学校と周辺地域の作品を見た割合が同程度である。<表 3-1>

表 3-2 鑑賞した作品

	回答数	パーセンテージ
【1回目(2012年)の展覧会】		
旧百島中学校の作品	98	90.7%
周辺地域の作品	70	64.8%
見ていない	34	31.5%
【2回目(2013年)の展覧会】		
旧百島中学校の作品	39	36.1%
周辺地域の作品	44	40.7%
見ていない	59	54.6%

(注) 総数：問1の「1回目または2回目見た」回答数の合計108

「アートベース百島を何によって知ったか」を質問した結果は、「自治会」(28.8%)、「近隣の人から」(25.2%)、「チラシ」(23.4%)、知人・友人(17.1%)の順が多かった。自治会や近隣の人あるいは知人・友人などの身近なネットワークから情報を得たことが分かる。〈表 3-3〉

表 3-3 アートベース百島を何によって知ったか

	回答数	パーセンテージ
近隣の人から	56	25.2%
自治会	64	28.8%
市の関係機関	32	14.4%
知人・友人	38	17.1%
チラシ	52	23.4%
新聞・テレビ	20	9.0%
インターネット	3	1.4%
その他	8	3.6%

「この芸術活動がおもしろかったか」を質問した結果は、回答者全体では「無回答」(25.7%)、「行っていないので分からない」(24.8%)、「ある程度おもしろかった」(24.3%)の順が多かった。前述のとおり、アートベース百島事業の鑑賞者が全体の半数程度であるため、鑑賞者に限って回答を見ると、「大いにおもしろかった」(13.0%)、「ある程度おもしろかった」(45.4%)となり、実際に作品を見た鑑賞者のおよそ6割は「おもしろかった」と評価している。「どちらともいえない」という回答者が2割程度あることは、一般になじみの少ない現代アートに対する百島の住民の感想を反映しているものと考えられる。〈表 3-4〉

表 3-4 この芸術活動がおもしろかったと思うか

	全体		鑑賞者	
	回答数	パーセンテージ	回答数	パーセンテージ
大いにおもしろかった	16	7.2%	14	13.0%
ある程度おもしろかった	54	24.3%	49	45.4%
どちらともいえない	26	11.7%	24	22.2%
あまり面白くなかった	11	5.0%	10	9.3%
まったくおもしろくなかった	3	1.4%	3	2.8%
行っていないのでわからない	55	24.8%	2	1.9%
無回答	57	25.7%	6	5.6%
合計	222	100.0%	108	100.0%

「この芸術活動あるいは芸術作品にどのような感想を持ったか」を質問した結果は、回答者全体では「これまでに見たことのない作品だった」(32.9%)、「よく分からなかった」(27.0%)、「アイデアがおもしろかった」(20.7%)の順が多かった。鑑賞者に限って回答を見ると、「これまでに見たことのない作品だった」(59.3%)、「アイデアがおもしろかった」(38.0%)、「よく分からなかった」(36.1%)であり、回答者全体に見られた傾向がさらに鮮明になっている。

一方、アートベース百島事業の鑑賞者のうち、「社会や地域の課題について何かを訴えていると感じた」(13.9%)、「地域(百島)に固有の文化・歴史の価値に気づかされた」(19.4%)、「地域(百島)に溶け込んだ作品になっていた」(15.7%)という感想を持った人の割合はあまり高くない。〈表 3-5〉

表 3-5 この芸術活動あるいは芸術作品に対する感想

	全体		鑑賞者	
	回答数	パーセンテージ	回答数	パーセンテージ
これまでに見たことのない作品だった	73	32.9%	64	59.3%
アイデアがおもしろかった	46	20.7%	41	38.0%
よく分からなかった	60	27.0%	39	36.1%
地域(百島)に固有の文化・歴史の価値に気づかされた	23	10.4%	21	19.4%
芸術性が高いと思った	21	9.5%	18	16.7%
地域(百島)に溶け込んだ作品になっていた	18	8.1%	17	15.7%
社会や地域の課題について何かを訴えていると感じた	17	7.7%	15	13.9%
その他	15	6.8%	1	0.9%

「芸術活動によりどのような成果があったと思うか」を質問した結果は、回答者全体では「マスコミの取材などにより百島が広く知られるようになった」(38.7%)、島の人の流れが変わった(島外の人々の来訪が増えた)」(34.2%)が特に多かった。鑑賞者に限って回答を見ると、「マスコミの取材などにより百島が広く知られるようになった」(61.1%)、「島の人の流れが変わった(島外の人々の来訪が増えた)」(55.6%)が同様に多いほか、「若者の来訪が増え活気が生まれるようになった(27.8%)、「島の文化の再発見・再生につながった」(25.0%)、「島外の人たちとの交流がうまれた」(21.3%)という項目もある程度評価されている。〈表 3-6〉

表 3-6 芸術活動の成果

	全体		鑑賞者	
	回答数	パーセンテージ	回答数	パーセンテージ
マスコミの取材などにより百島が広く知られるようになった	86	38.7%	66	61.1%
島の人の流れが変わった(島外の人々の来訪が増えた)	76	34.2%	60	55.6%
若者の来訪が増え活気が生まれるようになった	35	15.8%	30	27.8%
島の文化の再発見・再生につながった	33	14.9%	27	25.0%
島外の人たちとの交流がうまれた	29	13.1%	23	21.3%
島の文化や芸術の資源が増えた	27	12.2%	21	19.4%
特にない	35	15.8%	16	14.8%
島内の人々の交流が深まった	17	7.7%	14	13.0%
住民による島づくり(地域)活動が活発になった	15	6.8%	13	12.0%
島の人々の地域に対する愛着や誇りが高まった	13	5.9%	10	9.3%
島外の人々の移住が期待できるようになった	12	5.4%	9	8.3%
島に経済効果(雇用や特産品販売など)がもたされた	4	1.8%	2	1.9%
その他	5	2.3%	2	1.9%

なお第1回調査（事前調査）において、百島の住民が「芸術活動で制作される作品に期待」したのは、「地域の歴史や伝統を反映する」（45.7%）ことおよび「マスコミ等に取り上げられる」（32.4%）ことであった。また住民が「芸術活動に期待」したことは、「島の文化の再生につながる」（48.2%）、「島外の人との交流が生まれること」（47.8%）、「島内の人々の交流が深まること」（39.7%）、「島づくり活動が活発になること」（32.4%）、「島外の人々の移住が期待できること」（28.7%）などであった。この結果と本調査結果を比較すると、アートベース百島事業が「島の文化の再生」につながったこと、また「島内外の人々との交流の活発」にしたことに関する住民の評価は事業前の期待ほどには高くなかったようである。一方、マスコミの取材などにより百島が広く知られるようになったことに対する評価は、事業前の期待と同等かそれ以上であったといえる。

「あなたが面白いと感じた作品（あるいは作家）は何でしたか」という質問に対する回答（自由記述）の内容は<表3-7>のとおりであった。

表 3-7 面白いと感じた作品・作家に関するコメント

作家について	作品について
柳幸典、原田典之、吉田夏奈、水口鉄人 ニコラス・ペルツァー、都築透、 もうひとり	プールに油、ドラム缶を積み重ねた部屋、 万国旗、古家の台所、福田の石壁の絵、カ フェの壁の絵、映像（3D）、写真（百島）、 写真（風景）、100のアイディアと向き合え たこと

「この芸術活動に参加・協力しましたか」を質問した結果は、「参加・協力した」が77人（56.2%）で回答者（無回答を除く）のおよそ半分であった。第1回調査（事前調査）において「参加・協力する」と回答した人は66.8%であったことと比較すると、実際に参加・協力した人の割合は、統計的に有意に少ない。つまり、アートベース百島が開催される前に住民が表明した参加・協力の意向ほどには、実際の参加・協力はなかったということになる。

「参加した場合、どのような方法でしたか」を質問した結果は、「芸術活動を見に行ったりイベントに参加した」(56.4%)、「島外の親戚や知人に来島をすすめた」(48.1%)、「地元に対する協力依頼や広報の面で協力した」(23.4%)の順で多く、「作家が島で生活・滞在することを支援した」(10.4%)、「会場の管理などの運営に協力した」(9.1%)、「芸術作品の制作に必要な材料などを提供した」(7.8%)、「芸術作品の制作作業に協力した」(5.2%)、「芸術活動に必要な物資を提供した」(5.1%)は少ない。参加・協力の形態は、芸術活動を見に行くあるいはイベントに参加する、他の人に来島を勧めるという間接的支援が多く、作家の滞在支援、作品制作に対する協力、また会場管理などの直接的支援は限定的だったようである。

なおほとんどの項目が第1回調査(事前調査)における回答割合(参加・協力する内容として挙げられた項目)より統計的に有意に低い。有意差がないのは、「芸術作品の制作作業に協力」、「会場の管理などの運営に協力」「その他」である。〈表 3-8〉

表 3-8 芸術活動に参加・協力したか。した場合、どのような方法か。

	第1回調査		第2回調査	
	回答数	パーセンテージ	回答数	パーセンテージ
参加・協力する(した)	131	66.8%	77	56.2%
参加・協力しない(しなかった)	65	33.2%	60	43.8%

注：第1回調査の参加・協力する割合は、第2回調査の参加・協力した割合より有意に高い ($z=1.9718, p=0.0243$)

	第1回調査		第2回調査	
	回答数	パーセンテージ	回答数	パーセンテージ
芸術活動を見に行ったりイベントに参加する(した) **	105	80.2%	44	56.4%
島外の親戚や知人に来島をすすめた	—	—	37	48.1%
地元に対する協力依頼や広報の面で協力する(した) *	47	35.9%	18	23.4%
作家が島で生活・滞在することを支援する(した) **	67	45.0%	8	10.4%

会場の管理などの運営に協力する（した）	14	10.7%	7	9.1%
芸術作品の制作に必要な材料などを提供する（した）*	25	18.7%	6	7.8%
その他	4	3.0%	6	7.8%
芸術作品の制作作業に協力する（した）	13	9.9%	4	5.2%
芸術活動に必要な物資を提供する（した）*	18	13.6%	4	5.1%
芸術活動に必要な資金を提供する（した）**	10	7.6%	0	0.0%

注：** は1%の有意水準で第1回調査の割合のほうが高いことを示す；*は5%の有意水準で第1回調査の割合のほうが高いことを示す；ほかは第1回調査の割合と第2回調査の割合の間に有意な差がない。

「芸術活動の作家（アーティスト）との交流はありましたか」を質問した結果は、回答者全体では「特になし」（45.1%）が最も多い。「イベントなどの際に話をした」（6.8%）、「作品制作中に時々あいさつや話をした」（7.7%）、「日常的にかなり親しくなった」（4.1%）はごく一部に止まる。アートベース百島に参加・協力した人に限って回答をみると、「イベントなどの際に話をした」（18.2%）、「作品制作中に時々あいさつや話をした」（15.58%）、「日常的にかなり親しくなった」（7.8%）であり、4割以上の人が作家と何らかの交流があった。〈表 3-9〉

「芸術活動に参加する学生との交流はありましたか」を質問した結果も、回答者全体では「特になし」（41.4%）が最も多い。「イベントなどの際に話をした」（8.6%）、「作品制作中に時々あいさつや話をした」（7.7%）、「日常的にかなり親しくなった」（3.6%）はごく一部に止まる。アートベース百島に参加・協力した人に限って回答をみると、「イベントなどの際に話をした」（20.8%）、「作品制作中に時々あいさつや話をした」（15.6%）、「日常的にかなり親しくなった」（7.8%）であり、4割以上の人が学生と何らかの交流があった。〈表 3-10〉

「芸術活動をきっかけに島外の観客などとの交流はありましたか」を質問した結果も、回答者全体では「特になし」（51.4%）が最も多い。「イベントなどの際に話をした」（8.1%）、「知り合いが出来た」（6.3%）、「その他」（0.9%）はごく一部に止まる。アートベース百島事業に参加・協力した人に限って回答をみると、「イベントなどの際に話をした」

(22.1%)、「知り合いが出来た」(15.6%)、「その他」(1.3%)であり、4割弱の人が作家と何らかの交流があった。〈表 3-11〉

アートベース百島の事業に参加・協力した回答者の場合は、作家、学生、島外の人々と交流する機会を持った割合が4割前後あったことになる。また、作家や学生と「イベントなどの際に話をした」「作品制作中に時々あいさつや話をした」、「日常的にかなり親しくなった」という項目について、全体と参加・協力者の回答数を比較すると、前者の方が若干多い。島外の観客との交流の場合も同様である。アートベース百島事業に参加・協力をしなかった人の間にも、新しい人的交流が波及していたことを示している。

表 3-9 芸術活動の作家（アーティスト）との交流

	全体		参加・協力者	
	回答数	パーセンテージ	回答数	パーセンテージ
イベントなどの際に話をした	15	6.8%	14	18.2%
作品制作中に時々あいさつや話をした	17	7.7%	12	15.6%
日常的にかなり親しくなった	9	4.1%	6	7.8%
その他	1	0.5%	0	0.0%
特になし	100	45.1%	30	39.0%
無回答	80	36.0%	15	19.5%
合計	222	100.0%	77	100.0%

表 3-10 芸術活動に参加する学生との交流

	全体		参加・協力者	
	回答数	パーセンテージ	回答数	パーセンテージ
イベントなどの際に話をした	19	8.6%	16	20.8%
作品制作中に時々あいさつや話をした	17	7.7%	12	15.6%
日常的にかなり親しくなった	8	3.6%	6	7.8%
その他	3	1.4%	2	2.6%
特になし	92	41.4%	25	32.5%
無回答	83	37.4%	16	20.8%
合計	222	100.0%	77	100.0%

表 3-11 芸術活動をきっかけとした島外の観客などとの交流

	全体		参加・協力者	
	回答数	パーセンテージ	回答数	パーセンテージ
イベントなどの際に話をした	18	8.1%	17	22.1%
知り合いが出来た	14	6.3%	12	15.6%
その他	2	0.9%	1	1.3%
特になし	114	51.4%	40	52.0%
無回答	74	33.3%	7	22.1%
合計	222	100.0%	77	100.0%

最後に、「仮の芸術活動に対する寄付額」を質問した結果は、「1000 円以下」(31.6%)、「寄付する気持ちはない」(26.3%)、「3000 円以下」(25.0%) の順で多かった。第 1 回調査(事前調査)で回答された金額よりも有意に低い金額である。第 1 回調査において、百島の住民は本芸術活動に(仮の)金銭的な支援をすることにある程度抵抗があることが示唆されたが、その傾向は第 2 回調査(事後調査)でさらに強くなっている。< 表 3-12 >

表 3-12 芸術活動に対する仮の寄付金額

	第 1 回調査		第 2 回調査	
	回答数	パーセンテージ	回答数	パーセンテージ
寄付する気持ちはない	37	17.3%	40	26.3%
1000 円以下	80	37.4%	48	31.6%
3000 円以下	47	22.0%	38	25.0%
5000 円以下	24	11.2%	16	10.5%
1 万円以下	20	9.4%	8	5.3%
1 万円以上	6	2.8%	2	1.3%

注：第 1 回調査の支払意志額のほうが有意に高い (t テスト：t=1.9053, p=0.0288 ; Wilcoxon 順位和検定：z=1.730, p=0.0469)

(3) 普段の生活について

「あなたと近隣・地域の人たちのおつきあいはどの程度ですか」を質問した結果は、「気軽に話し合えるようなつきあい（部分的）」(44.8%)、「会ったときにあいさつする程度のつきあい（形式的）」(27.3%)、「何かにつけ相談したり、助け合えるようなつきあい（全面的）」(20.98%)の順で多かった。「つきあいはほとんどない」(7.0%)はかなり少なく、住民のほとんどが近隣・地域の人々と日常的に付き合いがあり、半数以上は気軽に話し合ったり、相談したり助け合えるなどの形式的あるいは表面的な付き合いに止まらない関係を持っているといえる。ただ第1回調査（事前調査）における付き合いの程度の結果と比較すると、第2回調査（事後調査）の結果は統計的に有意に低い。

<表 3-13>

表 3-13 近隣・地域の人たちのつきあいの程度

	第1回調査		第2回調査	
	回答数	パーセンテージ	回答数	パーセンテージ
何かにつけ相談したり、助け合えるようなつきあい（全面的）	61	26.5%	30	21.0%
気軽に話し合えるようなつきあい（部分的）	127	55.2%	64	44.8%
会ったときにあいさつする程度のつきあい（形式的）	41	17.8%	39	27.3%
つきあいはほとんどない	1	0.4%	10	7.0%

注：第1回調査の付き合い程度のほうが有意に高い（tテスト：t=3.5272, p=0.0002；Wilcoxon 順位和検定：z=3.085, p=0.0010）

「地域団体に参加していますか」を質問した結果は、「自治会への参加あり」(67.3%)、「老人会への参加あり」(40.1%)、「ボランティア団体への参加あり」(41.1%)、「文化・音楽・趣味などのサークル団体への参加あり」(31.5%)、「スポーツ・レクリエーション団体への参加あり」(18.1%)となっている。

「地域団体に参加している程度」を質問した結果は、「自治会」に「積極的に参加」が43.4%であり、また「老人会」に「積極的に参加」が38.8%であった。地縁系団体

への参加はつきあいや名前だけという消極的な参加が半数以上である。「ボランティア団体」に「積極的に参加」は60.8%、「文化・音楽・趣味などのサークル団体」に「積極的に参加」は52.9%、「スポーツ・レクリエーション団体」に「積極的に参加」は52.2%であり、地縁系団体の場合より、若干積極的に参加しているが、自発的団体にもつきあいで参加している人が半数程度いる点が興味深い。

なお第1回調査（事前調査）における地域団体への参加の結果と、第2回調査（事後調査）の結果に統計的な相違は無かった。〈表3-14〉

表3-14 地域団体への参加の状況

	第1回調査		第2回調査	
	回答数	パーセンテージ	回答数	パーセンテージ
自治会				
なし	69	36.3%	49	32.7%
参加	121	63.7%	101	67.3%
老人会				
なし	124	63.3%	85	59.9%
参加	72	36.7%	57	40.1%
ボランティア団体				
なし	112	61.9%	83	58.9%
参加	69	38.1%	58	41.1%
文化・音楽・趣味などのサークル団体				
なし	131	71.6%	98	68.5%
参加	52	28.4%	45	31.5%
スポーツ・レクリエーション団体				
なし	142	79.3%	113	81.9%
参加	37	20.7%	25	18.1%

注：各団体の参加割合に関して、すべてのケースに、第1回調査と第2回調査の間に有意な差がない。

	第1回調査		第2回調査	
	回答数	パーセンテージ	回答数	パーセンテージ
自治会				
積極的に参加	43	43.4%	36	43.4%
つきあいとして参加	52	52.5%	44	53.0%
名前だけ参加	4	4.0%	3	3.6%
老人会				
積極的に参加	19	40.4%	19	38.8%
つきあいとして参加	26	55.3%	25	51.0%
名前だけ参加	2	4.3%	5	10.2%
ボランティア団体				
積極的に参加	28	52.8%	31	60.8%
つきあいとして参加	22	41.5%	19	37.3%
名前だけ参加	3	5.7%	1	2.0%
文化・音楽・趣味などのサークル団体				
積極的に参加	18	51.4%	18	52.9%
つきあいとして参加	15	42.9%	16	47.1%
名前だけ参加	2	5.7%	0	0.0%
スポーツ・レクリエーション団体				
積極的に参加	12	40.0%	12	52.2%
つきあいとして参加	16	53.3%	11	47.8%
名前だけ参加	2	6.7%	0	0.0%

注：各団体の参加程度に関して、すべてのケースに、第1回調査と第2回調査の間に有意な差がない。

「普段、地域で開催されるイベントにはどの程度参加していますか」を質問した結果（無回答を除く）は、「可能な範囲で参加している」（55.7%）が最も多く、「積極的に参加している」（15.8%）であった。7割の住民が地域のイベントには参加している。「あまり参加していない」（13.3%）また「全く参加していない」（15.2%）であった。

なお第1回調査（事前調査）における地域のイベントへの参加の結果と、第2回調査（事後調査）の結果を比較すると、統計的な差は無かった。〈表 3-15〉

表 3-15 地域で開催されるイベントへの参加の程度

	第 1 回調査		第 2 回調査	
	回答数	パーセンテージ	回答数	パーセンテージ
積極的に参加している	26	11.2%	25	15.8%
可能な範囲で参加している	143	61.6%	88	55.7%
あまり参加していない	41	17.7%	21	13.3%
全く参加していない	22	9.5%	24	15.2%

注：イベントの参加程度に関して、第 1 回調査と第 2 回調査の間に有意な差がない。

「信頼」の指標については、回答者の平均値が 3.651 であった。「幸福感」の指標については回答者の平均値が 4.169 であった。第 1 回調査（事前調査）の結果と、第 2 回調査（事後調査）の結果を比較すると、「信頼」の指標については統計的な相違は無かったが、「幸福感」の指標については第 2 回の平均値の方が有意に高かった。<表 3-16 ><表 3-17>

表 3-16 信頼度（おおまかに言って、たいていの人は信用できると思いますか。「とてもそう思う」を 6 点、「全くそう思わない」を 0 点）

	第 1 回調査		第 2 回調査	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差
信頼指標	3.705	1.344	3.651	1.484

注：信頼指標に関して、第 1 回調査と第 2 回調査の間に有意な差がない。

表 3-17 幸福度（「とても幸せ」を 6 点、「とても不幸」を 0 点）

	第 1 回調査		第 2 回調査	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差
幸福指標	3.939	1.320	4.169	1.328

注：幸福指標に関して、第 2 回調査の方が有意に高い (t テスト : $t=1.6861$, $p=0.0463$; Wilcoxon 順位和検定 : $z=1.882$, $p=0.0299$)

(4) 自身の変化および今後の取り組みについて

「芸術活動の開催によってあなた自身に変化はありましたか」を質問した結果は、回答者全体でみると、「地域の人たちとの日常的な付き合い」は「変わらない」が88.0%、「地域の人たちと協力すること」は「変わらない」が84.2%、「地域への愛着」は「変わらない」が87.7%であり、アートベース百島の事業の前後において、大半の住民は地域の付き合いや地域への愛着に関して、変化がないと考えていることが分かった。しかし「地域の将来について考えること」が「増えた」という回答は28.6%であり、また「島内の知り合いが増えた」(15.8%)、「島外の知り合いが増えた」(6.6%)、「島内・島外両方の知り合いが増えた」(3.3%)を合計すると回答者の26%が「知り合いが増えた」ことが分かった。

アートベース百島事業の参加・協力者に限ってみると、「地域の人たちとの日常的な付き合い」が「増えた」回答者は18.1%、「地域の人たちと協力すること」が「増えた」回答者は18.8%、「地域への愛着」が「増えた」回答者は15.7%であり、アートベース百島事業がより強く影響している可能性がうかがえる。同様に参加・協力者に限ると「地域の将来について考えること」が「増えた」回答者は36.2%あり、「島内の知り合いが増えた」(20.0%)、「島外の知り合いが増えた」(14.3%)、「島内・島外両方の知り合いが増えた」(2.9%)を合計すると回答者の37%が「知り合いが増えた」ことが分かった。〈表3-18〉

表3-18 芸術活動の開催によるあなた自身の変化

	全体		参加・協力者	
	回答数	パーセンテージ	回答数	パーセンテージ
地域の人たちとの日常的な付き合い				
増えた	17	10.8%	13	18.1%
変わらない	139	88.0%	58	80.6%
減った	2	1.3%	1	1.4%
合計	158	100.0%	72	100.0%
地域の人たちと協力すること				
増えた	21	13.3%	13	18.8%
変わらない	133	84.2%	56	81.2%
減った	4	2.5%	0	0.0%
合計	158	100.0%	69	100.0%

地域への愛着				
増えた	18	11.6%	11	15.7%
変わらない	136	87.7%	58	82.9%
減った	1	0.7%	1	1.4%
合計	155	100.0%	70	100.0%
地域の将来について考えること				
増えた	40	28.6%	25	36.2%
変わらない	95	67.9%	41	59.4%
減った	5	3.6%	3	4.4%
合計	140	100.0%	69	100.0%
知り合いの数				
島内の知り合いが増えた	24	15.8%	14	20.0%
島外の知り合いが増えた	10	6.6%	10	14.3%
島内・島外両方の知り合いが増えた	5	3.3%	2	2.9%
変わらない	113	74.3%	44	62.9%
合計	152	100.0%	70	100.0%

次に「アートベース百島の来場者や施設の運営に対して、今後あなた自身がやりたいことがありますか」を質問した結果は、「果物・野菜または土産物を販売する」が20人(9.0%)、「飲食店を始める」が10人(4.5%)、「宿泊施設を始める」が6人(2.7%)、「百島の観光ガイドを行う」が10人(4.5%)、「アートベースの運営に参加する」が10人(4.5%)、「その他」が23人(10.4%)であった。各々の回答者割合は少ないが、これらの項目のいずれかを挙げた回答者数は59人(26.6%)であり、回答者の4人に1人は、アートベース百島の開催後に、何か新しい取り組みについて考え始めたということになる。〈表3-19〉

表3-19 アートベース百島の来場者や施設運営に対して今後あなたがやりたいこと

	回答数	パーセンテージ
果物・野菜または土産物を販売する	20	9.0%
飲食店を始める	10	4.5%
宿泊施設を始める	6	2.7%
百島の観光ガイドを行う	10	4.5%
アートベースの運営に参加する	10	4.5%
その他	23	10.4%
上記のいずれかに○と回答した人	59	26.6%

また「今後、島の活性化のために、全島民が参加できるような行事（盆踊りや納涼会など）を実施することについて」質問した結果は、「大いに賛成する」（27.9%）、「どちらかというとな賛成する」（29.7%）が合計すると6割近くを占めた。「わからない」（14.9%）と無回答（26.1%）も4割あるが、「どちらかというとな反対」（0.9%）および「大いに反対する」（0.5%）は非常に少ない。＜表 3-20＞

「全島民が参加できる行事が実施される場合、あなたはどのように協力できますか」を質問した結果は、「積極的に協力する」（7.7%）、「可能な範囲で協力する」（47.3%）で半数以上が協力すると回答している。「わからない」（9.0%）、「あまり協力できない」（5.9%）、「ほとんど協力できない」（3.6%）は少ない。ただ無回答が26.6%であることには留意が必要といえよう。ここから分かるのは、地域活性化のために全員参加型の伝統的な行事を望む回答者が半数以上あり、そのためにはある程度協力したいと考えている人も半数以上あるということである。＜表 3-21＞

表 3-20 全島民が参加できる島の活性化のための行事(盆踊りや納涼会)について

	回答数	パーセンテージ
大いに賛成する	62	27.9%
どちらかというとな賛成する	66	29.7%
わからない	33	14.9%
どちらかというとな反対	2	0.9%
大いに反対する	1	0.5%
無回答	58	26.1%
合計	222	100.0%

表 3-21 全島民が参加できる行事に対する協力

	回答数	パーセンテージ
積極的に協力する	17	7.7%
可能な範囲で協力する	105	47.3%
わからない	20	9.0%
あまり協力できない	13	5.9%
ほとんど協力できない	8	3.6%
無回答	59	26.6%
合計	222	100.0%

最後に「現在のあなたの暮らし向きについてどう感じていますか」を質問した結果は、「普通である」(70.2%)が大半であった。第1回調査(事前調査)の結果と、第2回調査(事後調査)の結果を比較すると、統計的な差は無かった。〈表 3-22〉

表 3-22 現在の暮らし向き

	第1回調査		第2回調査	
	回答数	パーセンテージ	回答数	パーセンテージ
余裕がある	7	3.0%	3	1.8%
どちらかという余裕がある	25	10.7%	22	13.1%
普通である	169	72.5%	118	70.2%
どちらかという苦しい	26	11.2%	19	11.3%
かなり苦しい	6	2.6%	6	3.6%

注：現在の暮らし向きについての感じは、第1回調査と第2回調査の間に有意な差がない。

4. 相関分析

次に、アートベース百島の鑑賞者および参加・協力者の特性を知るために、質問項目を(a)属性、(b)付き合い、(c)ネットワーク、(d)信頼度・幸福度・暮らし向き・寄付志向、(e)今後
に分類した上で、鑑賞の程度および参加・協力の有無が関連しているか否かを調べるため
に相関分析（カイ 2 乗検定）を行った。結果は表 4-1～表 4-10 のとおりである。以下では
まず結果の概要と考察を述べた後に、統計的に有意であった項目を中心に結果について述
べていく。

(1)相関分析結果の概要

◆属性：鑑賞者は福田地区と本村地区が多く、参加・協力者は全島同じ程度

アートベース百島事業の鑑賞者は、旧百島中学校がある本村地区および福田地区の住
民が多い傾向があったが、参加・協力者は地区別で相違はなかった。作品を見に行く鑑
賞行動については会場へのアクセスが影響しているが、参加・協力の行動は全島に広が
っていたと考えられる。また鑑賞者は若い年代の方が多く傾向があった。現代アートと
いう新しい芸術は若年層によりアピールしていることが考えられる。

職業については無職の人は鑑賞および参加・協力ともに少ない傾向があった。無職の
人には高齢で外出等が困難な人が多いことが関係していると推測される。

◆付き合い：鑑賞者および参加・協力者は普段の地域イベント参加が多く、参加・ 協力者は地域・近隣づきあいが深い

アートベース百島事業の鑑賞者および参加・協力者ともに普段から地域のイベントに
参加している人が多かった。つまり地域の行事に参加する慣習のある人はその延長線上
でアートベース百島を見に行ったり、協力したりしたと考えられる。参加・協力者は地
域・近隣づきあいが深い傾向があった。日常的に地域・近隣と深く付き合う人は、島外
者であるアートベース百島事業の関係者にも付き合いの輪を広げ参加・協力する傾向が
あったと考えられる。

ここで鑑賞者は提供されたアートベース百島の作品を観ることを中心とする受動的
な行動者であり、参加・協力者はアートベース百島の事業に主体的に関わる意思を持つ
能動的な行動者であると想定すると、能動的な行動を起こす要因としては、日常的に地
域・近隣と深く付き合うという気質や慣習を持っていることが重要になると考えられる。

◆ネットワーク：鑑賞者は自治会・ボランティアの参加者に多く、参加・協力者は自治会・ボランティア・文化系団体の参加者に多い

アートベース百島事業の鑑賞者および参加・協力者はともに、自治会およびボランティア団体に参加している人が多かった。また自治会に積極的に参加している人は、アートベース百島事業をより多く鑑賞したり参加・協力したりしている傾向があった。ここからは日常的なコミュニティ活動への参加がアートベース百島の鑑賞行動や参加・協力行動とかなり関連していることが分る。または助け合い（互酬性）につながるボランティア活動への参加も、鑑賞行動と関連があることが分かった。

また文化・音楽・趣味のサークル団体の参加者は、アートベース百島事業に参加・協力する人が多かった。文化などに関心がある人は、アートベース百島事業より多く参加・協力する傾向があったと考えられる。

先に述べたとおり、近年コミュニティの維持・発展のためにはソーシャル・キャピタル（人々の間にある信頼、互酬性、ネットワークなどの基盤）が重要であるという考え方が注目されているが、島民の間にあるつながりあるいはネットワークまた互酬性が、アートベース百島の運営を支える基盤になっていたことが推測される。

◆信頼度・幸福度・暮らし向き・寄付志向：鑑賞者および参加・協力者は幸福度が高い

アートベース百島事業の鑑賞者および参加・協力者はともに、幸福度が高い傾向があった。一方、鑑賞の程度および参加・協力の有無と、暮らし向きとの間に関連はなかった。これらを合わせて考えると、芸術文化は生活に潤いを与える余裕のある人々の関心事と見なされることが多いが、アートベース百島を鑑賞したり参加・協力したりする行動は、単純に物質的な豊かさではなく、精神的な豊かさと関連していることが推測され興味深い。

アートベース百島事業の参加・協力者は、寄付志向（仮に寄付しても良いと思う金額）が強く、金銭的協力にも積極的な傾向があった。これはボランティアの行動者は寄付も多いという一般的な傾向と連動している。なお前述のソーシャル・キャピタルに関わる信頼度については、鑑賞者および参加・協力者ともに関連はなかった。

◆今後の取り組み：鑑賞者および参加・協力者ともにアートベース百島に関連する取り組みおよび全島民参加型行事に対する協力の意向は強い

鑑賞者および参加・協力者はともに、今後のアートベース百島に関連する取り組み、および全島民参加型行事（盆踊りなど）に協力するという意向が強い。アートベース百島に受動的にせよ能動的にせよ関わったことが、今後新たな取り組みをしてみたいという積極的な意向につながっていることは注目される。地域の行事に積極的に関わる人は、現代美術を用いた事業であれ伝統的な事業であれ、ジャンルを問わず積極的に関わろうとする傾向があるということもできる。

ただ全島民参加型行事に対する賛否を尋ねた質問については、アートベース百島事業の参加・協力者は賛成が多いが、鑑賞者と鑑賞していない者との間に差はないという相違があった。

鑑賞の程度および参加・協力者の有無に関する分析結果は以下のとおりである。

(2)鑑賞の程度

(a)属性

回答者のアートベース百島事業の鑑賞の程度と属性に関して、統計的な有意差があったのは、年齢（1%水準）、地区（0.1水準）、職業（5%水準）であった。

年齢については、「2回鑑賞」した人は全般的に年齢層が低く40代～50代の割合が多い一方、「2回目のみ」鑑賞した人と「鑑賞なし」の人は80代の割合が多い傾向がある。

地区については、全体平均（合計）と比較すると、「2回鑑賞」した人は福田地区の割合がよりやや多く、「1回目のみ」鑑賞した人は本村地区の割合が多く、「鑑賞なし」の人は泊地区の割合が多い傾向がある。

職業については、全体平均（合計）と比較すると、「鑑賞なし」の人は「無職」の人の割合が多い傾向がある。「2回鑑賞」した人は「建設業・製造業など」と「その他」の割合がやや多かった。

性別、世帯類型、出身、居住年数、学歴については、統計的な有意差はなかった。

(b)付き合い

回答者のアートベース百島事業の鑑賞の程度と付き合いに関して、統計的な有意差があったのは、普段の地域イベント参加の程度（0.1%水準）であった。「2回鑑賞」した人と「1

回目のみ」鑑賞した人は、全般的に普段からより積極的に地域イベントに参加しており、全体平均（合計）と比較すると「積極的に参加している」および「可能な範囲で参加している」の回答割合がやや多い傾向がある。

近隣・地域との付き合いの程度については、統計的な有意差はなかった。

(c) ネットワーク

回答者のアートベース百島事業の鑑賞の程度とネットワーク（地域団体への参加の有無、参加の状況）に関して、統計的な有意差があったのは、自治会（0.1%水準）、ボランティア団体（1%水準）への参加であった。このうち団体に参加している状態に関しても有意差があったのは、自治会（5%水準）のみであった。

自治会については、全体平均（合計）と比較すると、「2回鑑賞」した人と「2回目のみ」鑑賞した人の参加割合がより多い。なお自治会の参加の状態に関しても、「2回鑑賞」した人と「2回目のみ」鑑賞した人は「積極的に」参加している。

老人クラブ、文化・音楽・趣味のサークル、スポーツ・レクリエーション団体の参加の有無およびボランティア団体の参加の程度については、統計的な有意差はなかった。

(d) 信頼度・幸福度・暮らし向き・寄付志向

回答者のアートベース百島事業の鑑賞の程度と信頼度・幸福度・暮らし向き・寄付志向に関して、統計的な有意差があったのは、幸福度（5%水準）のみであった。「2回鑑賞」した人と「2回目のみ」鑑賞した人の幸福度が全般的に高く、「2回鑑賞」した人は幸福度の評価を「4点」あるいは「5点」と回答した割合が6割以上である一方、「鑑賞なし」の人は「3点」あるいは「4点」と回答した割合が5割以上である。

信頼度、暮らし向き、寄付志向については、統計的な有意差はなかった。

(e) 今後の取り組み

回答者のアートベース百島事業の鑑賞の程度と今後の取り組みに関して、統計的な有意差があったのは、アートベース百島に関する取り組み（0.1%水準）および全島民参加型行事への協力（1%水準）であった。

アートベース百島に関する今後の取り組みについては、全般的に鑑賞した人は「鑑賞なし」の人より積極的であり、全体平均（合計）と比較すると「2回鑑賞」した人と「2回目

のみ」鑑賞した人が「やってみたいことがある」の回答割合が多い傾向がある。

全島民参加型行事への協力についても、アートベース百島事業を鑑賞した人は全般的に積極的であり、全体平均（合計）と比較すると「2回鑑賞」した人と「2回目のみ」鑑賞した人が「積極的に協力する」の回答割合が多い傾向がある。

表 4-1 属性

		2回鑑賞	1回のみ	2回のみ	鑑賞なし	合計	χ^2 値	自由度	P値		
性別	男性	21 (42.9%)	17 (34.0%)	2 (40.0%)	15 (30.0%)	55 (35.7%)	1.90	3	0.5926		
	女性	28 (57.1%)	33 (66.0%)	3 (60.0%)	35 (70.0%)	99 (64.3%)					
	合計	49 (100.0%)	50 (100.0%)	5 (100.0%)	50 (100.0%)	154 (100.0%)					
年齢	20代～30代	1 (2.0%)	1 (2.0%)	(0.0%)	(0.0%)	2 (1.3%)	22.51	9	0.0074 **		
	40代～50代	11 (22.4%)	6 (12.2%)	(0.0%)	6 (11.8%)	23 (14.9%)					
	60代～70代	31 (63.3%)	35 (71.4%)	2 (40.0%)	23 (45.1%)	91 (59.1%)					
	80代以上	6 (12.2%)	7 (14.3%)	3 (60.0%)	22 (43.1%)	38 (24.7%)					
	合計	49 (100.0%)	49 (100.0%)	5 (100.0%)	51 (100.0%)	154 (100.0%)					
地区	本村地区	15 (30.6%)	23 (47.9%)	1 (20.0%)	10 (16.9%)	49 (30.4%)	23.49	6	0.0006 ***		
	福田地区	17 (34.7%)	11 (22.9%)	1 (20.0%)	9 (15.3%)	38 (23.6%)					
	泊地区	17 (34.7%)	14 (29.2%)	3 (60.0%)	40 (67.8%)	74 (46.0%)					
	合計	49 (100.0%)	48 (100.0%)	5 (100.0%)	59 (100.0%)	161 (100.0%)					
世帯類型	一人暮らし	19 (38.8%)	10 (22.2%)	3 (75.0%)	20 (42.6%)	52 (35.9%)	12.01	12	0.4451		
	夫婦のみ	15 (30.6%)	22 (48.9%)	1 (25.0%)	16 (34.0%)	54 (37.2%)					
	核家族	5 (10.2%)	4 (8.9%)	(0.0%)	4 (8.5%)	13 (9.0%)					
	三世帯同居	3 (6.1%)	1 (2.2%)	(0.0%)	(0.0%)	4 (2.8%)					
	その他	7 (14.3%)	8 (17.8%)	(0.0%)	7 (14.9%)	22 (15.2%)					
	合計	49 (100.0%)	45 (100.0%)	4 (100.0%)	47 (100.0%)	145 (100.0%)					
出身	百島で生まれずっと	17 (37.8%)	20 (42.6%)	2 (50.0%)	23 (54.8%)	62 (44.9%)	4.81	6	0.5689		
	Uターン	15 (33.3%)	16 (34.0%)	1 (25.0%)	7 (16.7%)	39 (28.3%)					
	Iターン	13 (28.9%)	11 (23.4%)	1 (25.0%)	12 (28.6%)	37 (26.8%)					
	合計	45 (100.0%)	47 (100.0%)	4 (100.0%)	42 (100.0%)	138 (100.0%)					
居住年数	3年未満	2 (5.6%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	2 (1.9%)	13.35	15	0.5750		
	3年～5年未満	2 (5.6%)	2 (5.6%)	(0.0%)	(0.0%)	4 (3.7%)					
	5年～10年未満	3 (8.3%)	4 (11.1%)	(0.0%)	2 (6.3%)	9 (8.3%)					
	10年～20年未満	3 (8.3%)	6 (16.7%)	(0.0%)	3 (9.4%)	12 (11.1%)					
	20年～30年未満	6 (16.7%)	4 (11.1%)	(0.0%)	2 (6.3%)	12 (11.1%)					
	30年以上	20 (55.6%)	20 (55.6%)	4 (100.0%)	25 (78.1%)	69 (63.9%)					
	合計	36 (100.0%)	36 (100.0%)	4 (100.0%)	32 (100.0%)	108 (100.0%)					
職業	農業・漁業	6 (12.5%)	4 (8.7%)	1 (20.0%)	4 (8.0%)	15 (10.1%)	χ^2 値	12	P値		
	建設業・製造業など	8 (16.7%)	2 (4.3%)	(0.0%)	(0.0%)	10 (6.7%)				21.49	0.0437 *
	サービス業	2 (4.2%)	1 (2.2%)	(0.0%)	3 (6.0%)	6 (4.0%)					
	教員・公務員・専門職 など	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)					
	無職	24 (50.0%)	36 (78.3%)	4 (80.0%)	40 (80.0%)	104 (69.8%)					
	その他	8 (16.7%)	3 (6.5%)	(0.0%)	3 (6.0%)	14 (9.4%)					
	合計	48 (100.0%)	46 (100.0%)	5 (100.0%)	50 (100.0%)	149 (100.0%)					
学歴	高等学校まで	27 (64.3%)	21 (55.3%)	2 (66.7%)	16 (48.5%)	66 (56.9%)	15.44	9	0.0797		
	短期大学・高等専門学校	6 (14.3%)	5 (13.2%)	(0.0%)	3 (9.1%)	14 (12.1%)					
	4年制大学 (旧制高等学校も含む)	6 (14.3%)	6 (15.8%)	(0.0%)	1 (3.0%)	13 (11.2%)					
	その他	3 (7.1%)	6 (15.8%)	1 (33.3%)	13 (39.4%)	23 (19.8%)					
	合計	42 (100.0%)	38 (100.0%)	3 (100.0%)	33 (100.0%)	116 (100.0%)					

表 4-2 付き合い

		2回鑑賞	1回のみ	2回のみ	鑑賞なし	合計	χ^2 値	自由度	P値
近隣・地域 との付き合 い	会ったときにあいさつ する程度の付き合い (形式的)	9 (23.1%)	8 (20.0%)	2 (40.0%)	18 (41.9%)	37 (29.1%)	14.79	9	0.0970
	気軽に話し合えるよう な付き合い (部分的)	20 (51.3%)	21 (52.5%)	1 (20.0%)	13 (30.2%)	55 (43.3%)			
	何かにつけ相談した り、助け合えるような 付き合い (全面的)	10 (25.6%)	9 (22.5%)	1 (20.0%)	7 (16.3%)	27 (21.3%)			
	付き合いはほとんどな い	0 (0.0%)	2 (5.0%)	1 (20.0%)	5 (11.6%)	8 (6.3%)			
	合計	39 (100.0%)	40 (100.0%)	5 (100.0%)	43 (100.0%)	127 (100.0%)			
地域イベン ト参加	積極的に参加している	11 (24.4%)	9 (20.0%)	(0.0%)	2 (4.4%)	22 (15.7%)	37.40	9	0.0000 ***
	可能な範囲で参加して いる	28 (62.2%)	30 (66.7%)	3 (60.0%)	17 (37.8%)	78 (55.7%)			
	あまり参加していない	4 (8.9%)	5 (11.1%)	1 (20.0%)	9 (20.0%)	19 (13.6%)			
	全く参加していない	2 (4.4%)	1 (2.2%)	1 (20.0%)	17 (37.8%)	21 (15.0%)			
	合計	45 (100.0%)	45 (100.0%)	5 (100.0%)	45 (100.0%)	140 (100.0%)			

表 4-3 ネットワーク

		2回鑑賞	1回のみ	2回のみ	鑑賞なし	合計	χ^2 値	自由度	P値
自治会	参加なし	7 (16.3%)	14 (31.1%)	0 (0.0%)	24 (57.1%)	45 (33.6%)	18.37	3	0.0004 ***
	参加あり	36 (83.7%)	31 (68.9%)	4 (100.0%)	18 (42.9%)	89 (66.4%)			
	計	43 (100.0%)	45 (100.0%)	4 (100.0%)	42 (100.0%)	134 (100.0%)			
老人クラブ	参加なし	26 (66.7%)	28 (66.7%)	1 (25.0%)	23 (57.5%)	78 (62.4%)	3.42	3	0.3310
	参加あり	13 (33.3%)	14 (33.3%)	3 (75.0%)	17 (42.5%)	47 (37.6%)			
	計	39 (100.0%)	42 (100.0%)	4 (100.0%)	40 (100.0%)	125 (100.0%)			
ボランティア団体	参加なし	14 (35.9%)	25 (59.5%)	2 (50.0%)	31 (73.8%)	72 (56.7%)	12.09	3	0.0071 **
	参加あり	25 (64.1%)	17 (40.5%)	2 (50.0%)	11 (26.2%)	55 (43.3%)			
	計	39 (100.0%)	42 (100.0%)	4 (100.0%)	42 (100.0%)	127 (100.0%)			
文化・音楽・趣味サークル団体	参加なし	24 (61.5%)	27 (61.4%)	2 (50.0%)	34 (79.1%)	87 (66.9%)	4.51	3	0.2115
	参加あり	15 (38.5%)	17 (38.6%)	2 (50.0%)	9 (20.9%)	43 (33.1%)			
	計	39 (100.0%)	44 (100.0%)	4 (100.0%)	43 (100.0%)	130 (100.0%)			
スポーツ・レクリエーション団体	参加なし	32 (84.2%)	32 (76.2%)	2 (66.7%)	36 (85.7%)	102 (81.6%)	1.91	3	0.5913
	参加あり	6 (15.8%)	10 (23.8%)	1 (33.3%)	6 (14.3%)	23 (18.4%)			
	計	38 (100.0%)	42 (100.0%)	3 (100.0%)	42 (100.0%)	125 (100.0%)			
自治会参加の状態	積極的に	16 (53.3%)	11 (42.3%)	3 (75.0%)	3 (21.4%)	33 (44.6%)	16.11	6	0.0132 *
	つきあいで	14 (46.7%)	15 (57.7%)	0 (0.0%)	9 (64.3%)	38 (51.4%)			
	名前だけ	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (25.0%)	2 (14.3%)	3 (4.1%)			
	合計	30 (100.0%)	26 (100.0%)	4 (100.0%)	14 (100.0%)	74 (100.0%)			
ボランティア参加の状態	積極的に	15 (65.2%)	8 (57.1%)	2 (100.0%)	5 (55.6%)	30 (62.5%)	5.89	6	0.4362
	つきあいで	8 (34.8%)	6 (42.9%)	0 (0.0%)	3 (33.3%)	17 (35.4%)			
	名前だけ	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (11.1%)	1 (2.1%)			
	合計	23 (100.0%)	14 (100.0%)	2 (100.0%)	9 (100.0%)	48 (100.0%)			

表 4-4 信頼度・幸福度・暮らし向き・寄付志向

		2回鑑賞	1回のみ	2回のみ	鑑賞なし	合計	χ^2 値	自由度	P値
信頼度	0	2 (4.5%)	(0.0%)	1 (20.0%)	2 (4.8%)	5 (3.7%)	19.09	18	0.3863
	1	2 (4.5%)	3 (6.7%)	(0.0%)	5 (11.9%)	10 (7.4%)			
	2	2 (4.5%)	2 (4.4%)	(0.0%)	1 (2.4%)	5 (3.7%)			
	3	12 (27.3%)	15 (33.3%)	2 (40.0%)	13 (31.0%)	42 (30.9%)			
	4	9 (20.5%)	17 (37.8%)	(0.0%)	11 (26.2%)	37 (27.2%)			
	5	9 (20.5%)	7 (15.6%)	1 (20.0%)	5 (11.9%)	22 (16.2%)			
	6	8 (18.2%)	1 (2.2%)	1 (20.0%)	5 (11.9%)	15 (11.0%)			
	合計	44 (100.0%)	45 (100.0%)	5 (100.0%)	42 (100.0%)	136 (100.0%)			
幸福度	0	(0.0%)	(0.0%)	1 (20.0%)	1 (2.2%)	2 (1.4%)	33.25	18	0.0156 *
	1	1 (2.1%)	1 (2.2%)	(0.0%)	(0.0%)	2 (1.4%)			
	2	(0.0%)	1 (2.2%)	(0.0%)	5 (10.9%)	6 (4.2%)			
	3	8 (17.0%)	11 (23.9%)	2 (40.0%)	12 (26.1%)	33 (22.9%)			
	4	13 (27.7%)	11 (23.9%)	1 (20.0%)	13 (28.3%)	38 (26.4%)			
	5	17 (36.2%)	17 (37.0%)	(0.0%)	6 (13.0%)	40 (27.8%)			
	6	8 (17.0%)	5 (10.9%)	1 (20.0%)	9 (19.6%)	23 (16.0%)			
	合計	47 (100.0%)	46 (100.0%)	5 (100.0%)	46 (100.0%)	144 (100.0%)			
暮らし向き	余裕がある	2 (4.1%)	(0.0%)	(0.0%)	1 (2.0%)	3 (2.0%)	15.56	12	0.2122
	どちらかという余裕がある	7 (14.3%)	10 (20.8%)	(0.0%)	4 (8.2%)	21 (13.9%)			
	普通である	33 (67.3%)	35 (72.9%)	3 (60.0%)	35 (71.4%)	106 (70.2%)			
	どちらかという苦しい	5 (10.2%)	2 (4.2%)	2 (40.0%)	9 (18.4%)	18 (11.9%)			
	かなり苦しい	2 (4.1%)	1 (2.1%)	(0.0%)	(0.0%)	3 (2.0%)			
	合計	49 (100.0%)	48 (100.0%)	5 (100.0%)	49 (100.0%)	151 (100.0%)			
寄付金額	寄付する気持ちはない	6 (14.0%)	12 (25.5%)	0 (0.0%)	18 (43.9%)	36 (26.9%)	20.02	15	0.1713
	1000円以下	12 (27.9%)	16 (34.0%)	1 (33.3%)	12 (29.3%)	41 (30.6%)			
	3000円以下	12 (27.9%)	12 (25.5%)	1 (33.3%)	8 (19.5%)	33 (24.6%)			
	5000円以下	6 (14.0%)	5 (10.6%)	1 (33.3%)	2 (4.9%)	14 (10.4%)			
	1万円以下	5 (11.6%)	2 (4.3%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)	8 (6.0%)			
	1万円以上	2 (4.7%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	2 (1.5%)			
	合計	43 (100.0%)	47 (100.0%)	3 (100.0%)	41 (100.0%)	134 (100.0%)			

表 4-5 今後の取り組み

		2回鑑賞	1回目のみ	2回目のみ	鑑賞なし	合計	χ^2 値	自由度	P値
アートベース百島に関する取り組み	やってみたいことはない	28 (54.9%)	36 (69.2%)	2 (40.0%)	65 (87.8%)	131 (72.0%)	19.33	3	0.0002 ***
	やってみたいことがある	23 (45.1%)	16 (30.8%)	3 (60.0%)	9 (12.2%)	51 (28.0%)			
	合計	51 (100.0%)	52 (100.0%)	5 (100.0%)	74 (100.0%)	182 (100.0%)			
全島民参加型行事（盆踊りなど）について	大いに賛成する	21 (43.8%)	13 (28.3%)	2 (40.0%)	16 (33.3%)	52 (35.4%)	15.94	12	0.1941
	どちらかという賛成する	21 (43.8%)	25 (54.3%)	2 (40.0%)	15 (31.3%)	63 (42.9%)			
	わからない	6 (12.5%)	7 (15.2%)	1 (20.0%)	15 (31.3%)	29 (19.7%)			
	どちらかという反対	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (4.2%)	2 (1.4%)			
	大いに反対する	0 (0.0%)	1 (2.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.7%)			
	合計	48 (100.0%)	46 (100.0%)	5 (100.0%)	48 (100.0%)	147 (100.0%)			
全島民参加型行事（盆踊りなど）への協力	積極的に協力する	10 (21.3%)	6 (12.2%)	1 (20.0%)	(0.0%)	17 (11.6%)	32.31	12	0.0012 **
	可能な範囲で協力する	31 (66.0%)	35 (71.4%)	3 (60.0%)	25 (54.3%)	94 (63.9%)			
	わからない	6 (12.8%)	3 (6.1%)	1 (20.0%)	7 (15.2%)	17 (11.6%)			
	あまり協力できない	(0.0%)	4 (8.2%)	(0.0%)	7 (15.2%)	11 (7.5%)			
	ほとんど協力できない	(0.0%)	1 (2.0%)	(0.0%)	7 (15.2%)	8 (5.4%)			
	合計	47 (100.0%)	49 (100.0%)	5 (100.0%)	46 (100.0%)	147 (100.0%)			

(3)参加・協力の有無

(a)属性

回答者のアートベース百島事業に対する参加・協力の有無と属性に関して統計的な有意差があったのは、職業（1%水準）のみであった。職業については、「参加・協力あり」の人は「建設業・製造業など」と「その他」の割合がやや多く、「参加・協力なし」の人は「無職」の人の割合が多い。

性別、年齢、居住地区、世帯類型、出身、居住年数、学歴については、統計的な有意差はなかった。

(b)付き合い

回答者のアートベース百島事業に対する参加・協力の有無と付き合いに関して統計的な有意差があったのは、近隣・地域との付き合いの程度（1%水準）および地域イベント参加の程度（0.1%水準）であった。「参加・協力あり」の人は「参加・協力なし」の人より全般的に近隣・地域との付き合いが深く、前者は「全面的」な付き合いの回答割合が多い。また「参加・協力あり」の人は、全般的に普段からより積極的に地域イベントに参加しており、「積極的に参加している」および「可能な範囲で参加している」の回答割合が多い。

(c) ネットワーク

回答者のアートベース百島事業に対する参加・協力の有無とネットワーク（地域団体への参加の有無、参加の状況）に関して、統計的な有意差があったのは、自治会（1%水準）、ボランティア団体（1%水準）、文化・音楽・趣味のサークル団体（5%水準）への参加であった。このうち団体に参加している状態に関しても有意差があったのは、自治会（1%水準）のみであった。

「参加・協力あり」の人は「参加・協力なし」の人より、自治会、ボランティア団体および文化・音楽・趣味のサークル団体に参加している割合が高い。「参加・協力あり」の人は「参加・協力なし」の人より、自治会の参加の状態に関しても「積極的に」参加という回答の割合が多い。

老人クラブとスポーツ・レクリエーション団体の参加の有無、またボランティア団体と文化・音楽・趣味のサークルの参加の状況については、統計的な有意差はなかった。

(d)信頼度・幸福度・暮らし向き・寄付志向

回答者のアートベース百島事業に対する参加・協力の有無と、信頼度・幸福度・暮らし向き・寄付志向に関して有意差があったのは、幸福度（5%水準）および寄付志向（1%水準）であった。

「参加・協力あり」の人は「参加・協力なし」の人より幸福度の評価が全般的に高く、前者は幸福度の評価を「4点」あるいは「5点」と回答した割合が6割以上である一方、後者は「3点」あるいは「4点」と回答した割合が6割である。

また「参加・協力あり」の人は「参加・協力なし」の人より仮の寄付金額が高く、前者は「3000円以下」～「1万円以上」の合計割合が高い。

信頼度と暮らし向きについては、統計的な有意差はなかった。

(e)今後の取り組み

回答者のアートベース百島事業に対する参加・協力の有無と、今後の取り組みに関して有意差があったのは、「アートベース百島に関する取り組み」（5%水準）、「全島民参加型行事への賛同」（0.1%水準）および「全島民参加型行事への協力」（0.1%水準）であった。

「参加・協力あり」の人は「参加・協力なし」の人よりアートベース百島に関する今後の取り組みに全般的に積極的であり、前者は後者より今後「やってみたいことがある」の回答割合が多い。

全島民参加型行事への賛意については、アートベース百島事業に「参加・協力あり」の人は「参加・協力なし」の人より賛成が多く、前者の「大いに賛成する」と「どちらかというに賛成する」の合計割合は9割である。

全島民参加型行事への協力についても、「参加・協力あり」の人は「参加・協力なし」の人より全般的に積極的であり、前者は「積極的に協力する」また「可能な範囲で協力する」の回答割合が多い。

表 4-6 属性

		参加・協力あり	参加・協力なし	計	χ^2 値	自由度	P値
性別	男性	33 (44.0%)	19 (32.8%)	52 (39.1%)	1.74	1	0.1877
	女性	42 (56.0%)	39 (67.2%)	81 (60.9%)			
	合計	75 (100.0%)	58 (100.0%)	133 (100.0%)			
年齢	20代～30代	3 (4.0%)	(0.0%)	3 (2.3%)	5.99	3	0.1120
	40代～50代	14 (18.7%)	7 (12.3%)	21 (15.9%)			
	60代～70代	45 (60.0%)	32 (56.1%)	77 (58.3%)			
	80代以上	13 (17.3%)	18 (31.6%)	31 (23.5%)			
	合計	75 (100.0%)	57 (100.0%)	132 (100.0%)			
地区	本村地区	25 (33.3%)	19 (34.5%)	44 (33.8%)	1.01	2	0.6023
	福田地区	22 (29.3%)	12 (21.8%)	34 (26.2%)			
	泊地区	28 (37.3%)	24 (43.6%)	52 (40.0%)			
	合計	75 (100.0%)	55 (100.0%)	130 (100.0%)			
世帯類型	一人暮らし	24 (32.0%)	22 (42.3%)	46 (36.2%)	2.24	4	0.6918
	夫婦のみ	29 (38.7%)	18 (34.6%)	47 (37.0%)			
	核家族	6 (8.0%)	5 (9.6%)	11 (8.7%)			
	三世帯同居	3 (4.0%)	1 (1.9%)	4 (3.1%)			
	その他	13 (17.3%)	6 (11.5%)	19 (15.0%)			
	合計	75 (100.0%)	52 (100.0%)	127 (100.0%)			
出身	百島で生まれずっと	28 (42.4%)	29 (52.7%)	57 (47.1%)	4.21	2	0.1221
	Uターン	23 (34.8%)	10 (18.2%)	33 (27.3%)			
	Iターン	15 (22.7%)	16 (29.1%)	31 (25.6%)			
	合計	66 (100.0%)	55 (100.0%)	121 (100.0%)			
居住年数	3年未満	2 (3.6%)	(0.0%)	2 (2.1%)	8.26	5	0.1427
	3年～5年未満	4 (7.3%)	(0.0%)	4 (4.2%)			
	5年～10年未満	4 (7.3%)	4 (10.0%)	8 (8.4%)			
	10年～20年未満	8 (14.5%)	2 (5.0%)	10 (10.5%)			
	20年～30年未満	7 (12.7%)	4 (10.0%)	11 (11.6%)			
	30年以上	30 (54.5%)	30 (75.0%)	60 (63.2%)			
	合計	55 (100.0%)	40 (100.0%)	95 (100.0%)			
職業	農業・漁業	5 (6.9%)	7 (12.1%)	12 (9.2%)	14.81	4	0.0051 **
	建設業・製造業など	9 (12.5%)	1 (1.7%)	10 (7.7%)			
	サービス業	3 (4.2%)	3 (5.2%)	6 (4.6%)			
	教員・公務員・専門職 など	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)			
	無職	43 (59.7%)	46 (79.3%)	89 (68.5%)			
	その他	12 (16.7%)	1 (1.7%)	13 (10.0%)			
	合計	72 (100.0%)	58 (100.0%)	130 (100.0%)			
学歴	高等学校まで	35 (53.8%)	27 (62.8%)	62 (57.4%)	1.98	3	0.5756
	短期大学・高等専門学校	9 (13.8%)	3 (7.0%)	12 (11.1%)			
	4年制大学 (旧制高等学校も含む)	9 (13.8%)	4 (9.3%)	13 (12.0%)			
	その他	12 (18.5%)	9 (20.9%)	21 (19.4%)			
	合計	65 (100.0%)	43 (100.0%)	108 (100.0%)			

表 4-7 付き合い

		参加・協力あり	参加・協力なし	計	χ^2 値	自由度	P値
近隣・地域 との付き合い	会ったときにあいさつ する程度の付き合い (形式的)	13 (21.7%)	16 (31.4%)	29 (26.1%)	11.43	3	0.0096 **
	気軽に話し合えるよう な付き合い (部分的)	27 (45.0%)	22 (43.1%)	49 (44.1%)			
	何かにつけ相談した り、助け合えるような 付き合い (全面的)	19 (31.7%)	6 (11.8%)	25 (22.5%)			
	付き合いはほとんどな い	1 (1.7%)	7 (13.7%)	8 (7.2%)			
	合計	60 (100.0%)	51 (100.0%)	111 (100.0%)			
					χ^2 値	自由度	P値
地域イベン ト参加	積極的に参加している	20 (28.2%)	5 (8.8%)	25 (19.5%)	29.37	3	0.0000 ***
	可能な範囲で参加して いる	46 (64.8%)	25 (43.9%)	71 (55.5%)			
	あまり参加していない	3 (4.2%)	12 (21.1%)	15 (11.7%)			
	全く参加していない	2 (2.8%)	15 (26.3%)	17 (13.3%)			
合計		71 (100.0%)	57 (100.0%)	128 (100.0%)			

表 4-8 ネットワーク

		参加・協力あり	参加・協力なし	計	χ^2 値	自由度	P値
自治会	参加なし	14 (20.9%)	27 (47.4%)	41 (33.1%)	9.75	1	0.0018 **
	参加あり	53 (79.1%)	30 (52.6%)	83 (66.9%)			
	計	67 (100.0%)	57 (100.0%)	124 (100.0%)			
老人クラブ	参加なし	35 (61.4%)	38 (69.1%)	73 (65.2%)	0.73	1	0.3933
	参加あり	22 (38.6%)	17 (30.9%)	39 (34.8%)			
	計	57 (100.0%)	55 (100.0%)	112 (100.0%)			
ボランティア団体	参加なし	27 (43.5%)	39 (72.2%)	66 (56.9%)	9.68	1	0.0019 **
	参加あり	35 (56.5%)	15 (27.8%)	50 (43.1%)			
	計	62 (100.0%)	54 (100.0%)	116 (100.0%)			
文化・音楽・趣味サークル	参加なし	36 (58.1%)	44 (80.0%)	80 (68.4%)	6.49	1	0.0109 *
	参加あり	26 (41.9%)	11 (20.0%)	37 (31.6%)			
	計	62 (100.0%)	55 (100.0%)	117 (100.0%)			
スポーツ・レクリエーション団体	参加なし	47 (78.3%)	47 (88.7%)	94 (83.2%)	2.15	1	0.1422
	参加あり	13 (21.7%)	6 (11.3%)	19 (16.8%)			
	計	60 (100.0%)	53 (100.0%)	113 (100.0%)			
自治会程度	積極的に	26 (57.8%)	7 (26.9%)	33 (46.5%)	9.81	2	0.0074 **
	つきあいで	19 (42.2%)	16 (61.5%)	35 (49.3%)			
	名前だけ	0 (0.0%)	3 (11.5%)	3 (4.2%)			
	合計	45 (100.0%)	26 (100.0%)	71 (100.0%)			
ボランティア程度	積極的に	22 (64.7%)	6 (46.2%)	28 (59.6%)	3.45	2	0.1783
	つきあいで	12 (35.3%)	6 (46.2%)	18 (38.3%)			
	名前だけ	0 (0.0%)	1 (7.7%)	1 (2.1%)			
	合計	34 (100.0%)	13 (100.0%)	47 (100.0%)			
文化・音楽・趣味サークル団体	積極的に	15 (71.4%)	3 (33.3%)	18 (60.0%)	3.81	1	0.0510
	つきあいで	6 (28.6%)	6 (66.7%)	12 (40.0%)			
	名前だけ	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)			
	合計	21 (100.0%)	9 (100.0%)	30 (100.0%)			

表 4-9 信頼度・幸福度・暮らし向き・寄付志向

		参加・協力あり	参加・協力なし	計	χ^2 値	自由度	P値
信頼度	0	2 (2.9%)	2 (3.7%)	4 (3.3%)	5.65	6	0.4632
	1	3 (4.4%)	2 (3.7%)	5 (4.1%)			
	2	2 (2.9%)	2 (3.7%)	4 (3.3%)			
	3	18 (26.5%)	23 (42.6%)	41 (33.6%)			
	4	19 (27.9%)	13 (24.1%)	32 (26.2%)			
	5	15 (22.1%)	5 (9.3%)	20 (16.4%)			
	6	9 (13.2%)	7 (13.0%)	16 (13.1%)			
	合計	68 (100.0%)	54 (100.0%)	122 (100.0%)			
幸福度	0	0 (0.0%)	1 (1.8%)	1 (0.8%)	13.49	6	0.0359 *
	1	2 (2.7%)	(0.0%)	2 (1.6%)			
	2	2 (2.7%)	2 (3.6%)	4 (3.1%)			
	3	10 (13.7%)	20 (36.4%)	30 (23.4%)			
	4	21 (28.8%)	13 (23.6%)	34 (26.6%)			
	5	26 (35.6%)	10 (18.2%)	36 (28.1%)			
	6	12 (16.4%)	9 (16.4%)	21 (16.4%)			
	合計	73 (100.0%)	55 (100.0%)	128 (100.0%)			
暮らし向き	余裕がある	1 (1.3%)	1 (1.8%)	2 (1.5%)	7.89	4	0.0956
	どちらかという余裕がある	14 (18.7%)	5 (8.8%)	19 (14.4%)			
	普通である	52 (69.3%)	40 (70.2%)	92 (69.7%)			
	どちらかという苦しい	4 (5.3%)	10 (17.5%)	14 (10.6%)			
	かなり苦しい	4 (5.3%)	1 (1.8%)	5 (3.8%)			
	合計	75 (100.0%)	57 (100.0%)	132 (100.0%)			
寄付金額	寄付する気持ちはない	8 (11.6%)	24 (43.6%)	32 (25.8%)	19.71	5	0.0014 **
	1000円以下	24 (34.8%)	15 (27.3%)	39 (31.5%)			
	3000円以下	20 (29.0%)	9 (16.4%)	29 (23.4%)			
	5000円以下	8 (11.6%)	6 (10.9%)	14 (11.3%)			
	1万円以下	7 (10.1%)	1 (1.8%)	8 (6.5%)			
	1万円以上	2 (2.9%)	(0.0%)	2 (1.6%)			
	合計	69 (100.0%)	55 (100.0%)	124 (100.0%)			

表 4-10 今後の取り組みなど

		参加・協力あり	参加・協力なし	計	χ^2 値	自由度	P値
アートベ ス百島に 関する取 組 み	やってみたいことはな い	42 (54.5%)	45 (75.0%)	87 (63.5%)	6.09	1	0.0136 *
	やってみたいことがあ る	35 (45.5%)	15 (25.0%)	50 (36.5%)			
	合計	77 (100.0%)	60 (100.0%)	137 (100.0%)			
全島民参加 型行事 (盆 踊りなど) について	大いに賛成する	40 (54.8%)	12 (21.4%)	52 (40.3%)	21.04	4	0.0003 ***
	どちらかという と賛成する	26 (35.6%)	28 (50.0%)	54 (41.9%)			
	わからない	5 (6.8%)	16 (28.6%)	21 (16.3%)			
	どちらかという と反対	1 (1.4%)	(0.0%)	1 (0.8%)			
	大いに反対する	1 (1.4%)	(0.0%)	1 (0.8%)			
	合計	73 (100.0%)	56 (100.0%)	129 (100.0%)			
全島民参加 型行事 (盆 踊りなど) への協力	積極的に協力する	15 (20.5%)	2 (3.6%)	17 (13.2%)	28.72	4	0.0000 ***
	可能な範囲で協力する	53 (72.6%)	32 (57.1%)	85 (65.9%)			
	わからない	5 (6.8%)	7 (12.5%)	12 (9.3%)			
	あまり協力できない	(0.0%)	8 (14.3%)	8 (6.2%)			
	ほとんど協力できない	(0.0%)	7 (12.5%)	7 (5.4%)			
	合計	73 (100.0%)	56 (100.0%)	129 (100.0%)			

<参考文献>

- 金谷信子・瀋俊毅・高橋広雅・中島正博. 2013. 「旧百島中学校における芸術活動に関する島民の意識調査から: アートプロジェクトを用いた地域再生の可能性と課題」 『広島国際研究』 Vol.19, pp.51-66.
- 北川フラム. 2005. 『希望の美術・協働の夢 北川フラムの40年 1965-2004』 角川書店.
- パットナム, ロバート・D. 柴内康文訳. 2006. 『孤独なボウリングー米国コミュニティの崩壊と再生』 柏書房.
- 佐野晋平・大竹文雄. 2007. 「労働と幸福度」 『日本労働研究雑誌』 Vol.558, pp.4-18.
- 宍戸邦章. 2007. 「高齢期における幸福感規定要因の男女差についてーJGSS-2000/2001 統合データに基づく検討ー」 『JGSS で見た日本人の意識と行動: 日本版 *General Social Surveys* 研究論文集』 Vol.6, pp. 45-56.
- 総務省.(各年). 社会生活基本調査.

資料① アンケート票

記入後は、封筒に入れて提出してください。

アートベース百島（旧百島中学校の再利用を中心とする芸術活動）
に関するアンケート調査ご協力のお願い

皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

現在、広島市立大学国際学部では文科省の補助金を得て、地域活性化の事例を研究しています。その一つとして、昨年に旧百島中学校の再利用を中心とする芸術活動に関する事業実施前の意識調査を実施させていただきました。多くの皆様にご協力いただきましたことに、厚くお礼申し上げます。本年は事業実施後の意識調査を実施させていただきたいと考えています。

なお本アンケートは尾道市教育委員会および百島社会福祉協議会の承諾を得て進めている調査の一環です。芸術活動については別添の資料をご覧ください。

皆様からの回答は統計処理した上で集計データとして分析し、学術研究目的のみに使用します。個人が特定できる形で結果が明らかになることは一切ありません。なお調査結果は報告書にまとめ自治会にお渡しする予定です。学会等での発表も予定しています。なお、百島での芸術活動と本調査の実施者は異なることを申し添えさせていただきます。お忙しいところ恐縮ですが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

広島市立大学国際学部 中島正博 金谷信子 高橋広雅
神戸大学経済経営研究所 藩 俊毅

※なお本アンケートにご不明な点がある場合は、下記までお問合せください。

〒731 - 3194

広島県広島市安佐南区大塚東 3-4-1 広島市立大学国際学部

担当者：金谷・高橋・中島

電話：082-830-1505（月曜日-金曜日、10時-17時）

ファックス：082-830-1657

E-mail：nkanaya@intl.hiroshima-cu.ac.jp

問6 芸術活動によりどのような成果があったと思いますか。

(あてはまるものすべてに○, 最もあてはまるものに◎)

1. 島の文化の再発見・再生につながった
2. 島の文化や芸術の資源が増えた
3. 島の人の流れが変わった (島外の人々の来訪が増えた)
4. 若者の来訪が増え活気が生まれるようになった
5. マスコミの取材などにより百島が広く知られるようになった
6. 島外の人たちとの交流がうまれた
7. 島内の人々の交流が深まった
8. 島の人々の地域に対する愛着や誇りが高まった
9. 住民による島づくり (地域) 活動が活発になった
10. 島に経済効果 (雇用や特産品販売など) がもたされた
11. 島外の人々の移住が期待できるようになった
12. その他 (具体的に: _____)
13. 特にない.

問7 あなたが面白いと感じた作品 (あるいは作家) は何でしたか。

(_____)

問8 この芸術活動に参加・協力しましたか。した場合、どのような方法でしたか。

1. 参加・協力した

↳ 具体的には (あてはまるものにすべて○)

- (1) 芸術活動を見に行ったりイベントに参加した
- (2) 地元に対する協力依頼や広報の面で協力した
- (3) 芸術作品の制作作業に協力した
- (4) 芸術作品の制作に必要な材料などを提供した
- (5) 作家が島で生活・滞在することを支援した
- (6) 会場の管理などの運営に協力した
- (7) 芸術活動に必要な物資を提供した
- (8) 芸術活動に必要な資金を提供した
- (9) 島外の親戚や知人に来島をすすめた
- (10) その他 (具体的に: _____)

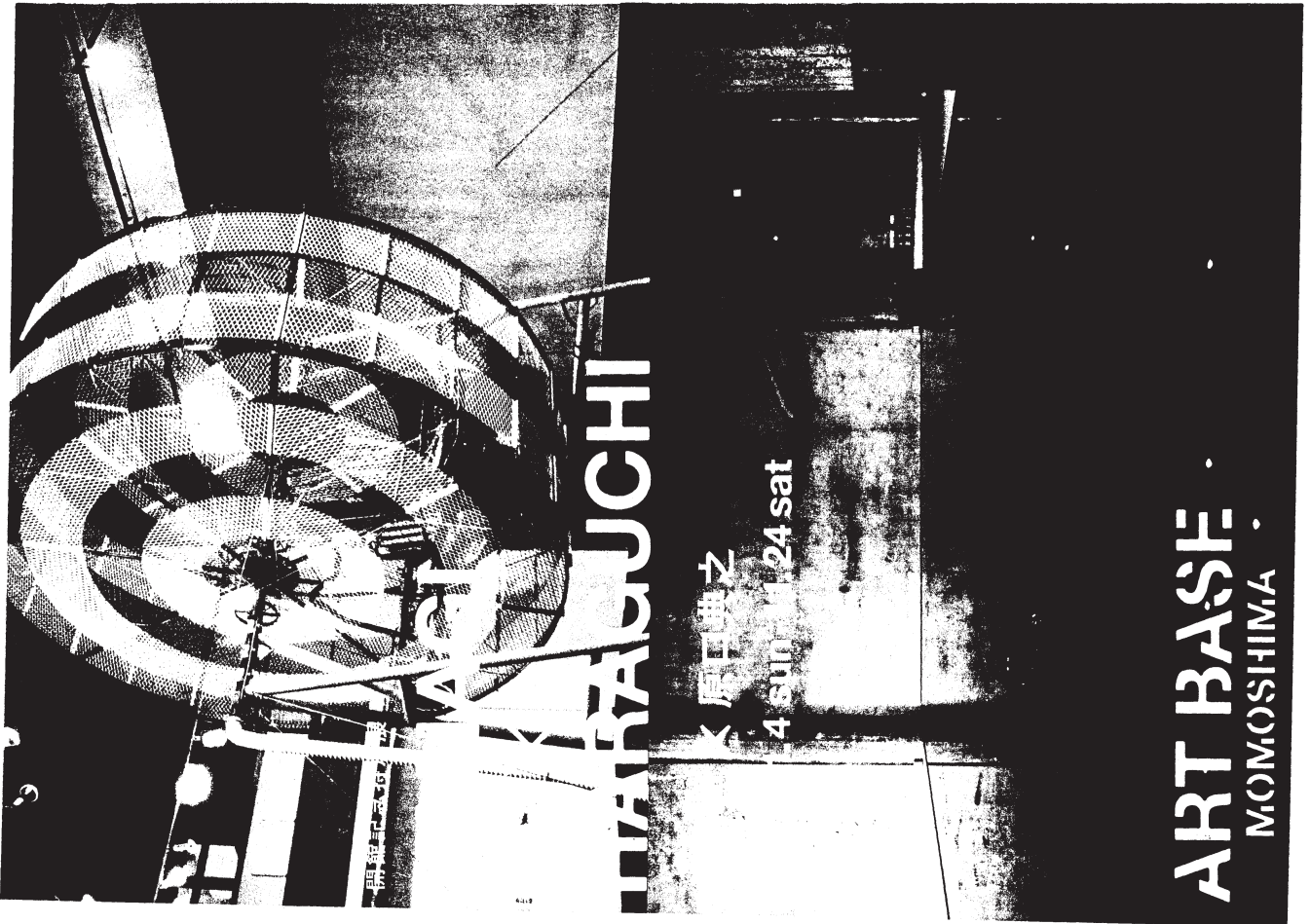
2. 参加・協力しなかった

資料② ART BASE 百島 開館記念展資料 (2012年11月)

ART BASE
MOMOSHIMA

11.4

開館記念展 | YANAGI × HARAGUCHI + UTOPIA — 何処にもない場所 —



HARAGUCHI

× 原口雄之

4 sun - sat

ART BASE
MOMOSHIMA

ART BASE MOMOSHIMA

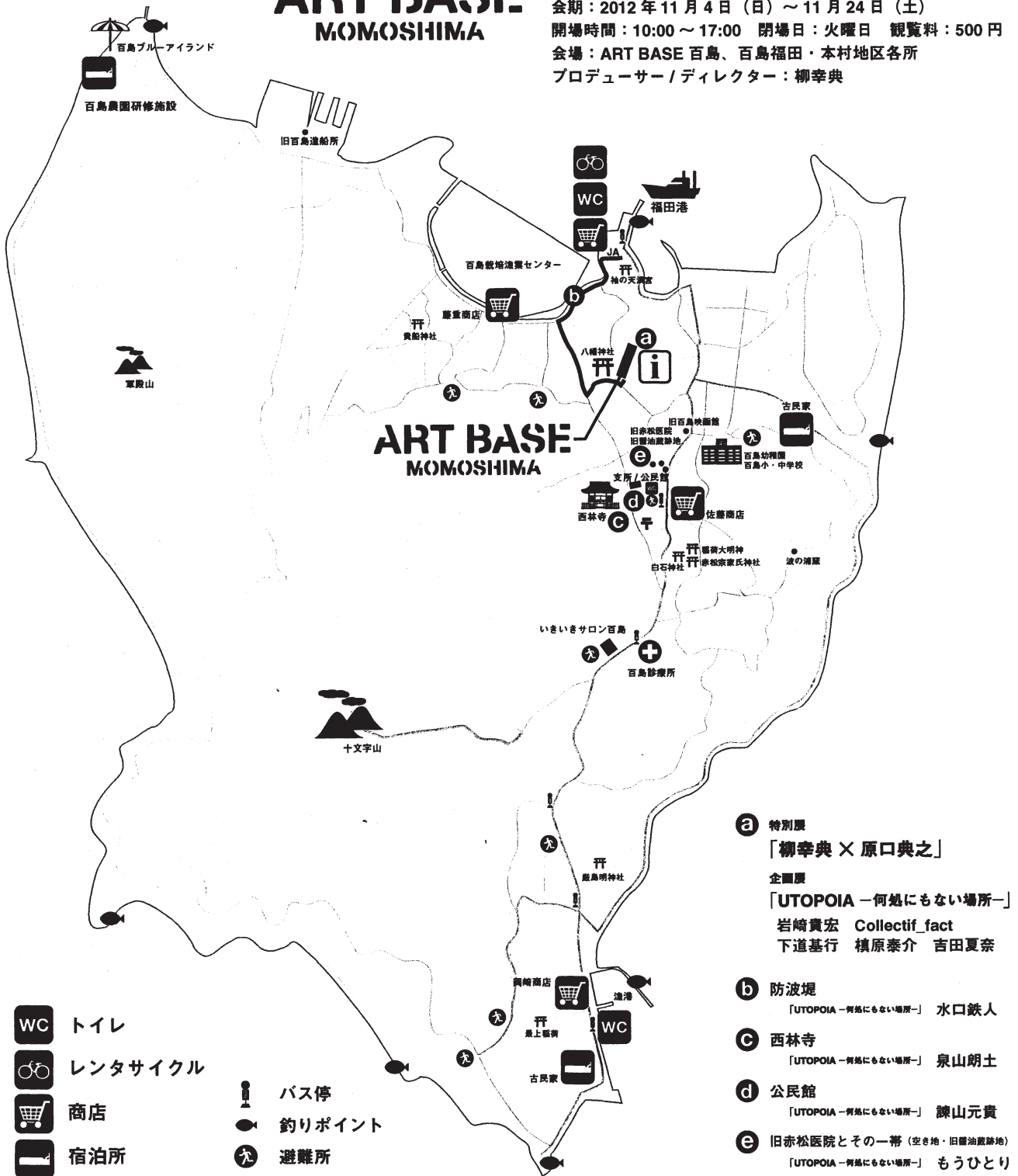
ART BASE 百島：開館記念展

会期：2012年11月4日（日）～11月24日（土）

開場時間：10:00～17:00 閉場日：火曜日 観覧料：500円

会場：ART BASE 百島、百島福田・本村地区各所

プロデューサー/ディレクター：柳幸典



WC トイレ

レンタサイクル

商店

宿泊所

バス停

釣りポイント

避難所

a 特別展
「柳幸典 × 原口典之」

企画展

「UTOPOIA -何処にもない場所-」

岩崎貴宏 Collectif_fact

下道基行 槇原泰介 吉田夏奈

b 防波堤
「UTOPOIA -何処にもない場所-」 水口鉄人

c 西林寺
「UTOPOIA -何処にもない場所-」 泉山朗土

d 公民館
「UTOPOIA -何処にもない場所-」 諫山元貴

e 旧赤松医院とその一帯（空き地・旧醤油蔵跡地）
「UTOPOIA -何処にもない場所-」 もうひとり

関連企画

1. 情報ステーション「旗正丸」

プロデューサー：ART BASE 百島

デザイン：TETUSIN DESIGN OFFICE & SAITO MASAO ARCHITECTURE OFFICE

寄贈：旗手正守氏

期間：2012年11月2日（金）～

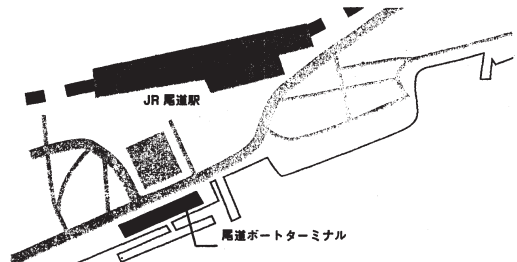
場所：尾道ポートターミナルビル（尾道港）

2. 牛嶋均「人力球」

会期：2012年11月2日（金）～11月24日（土）

場所：尾道ポートターミナルビル（尾道港）

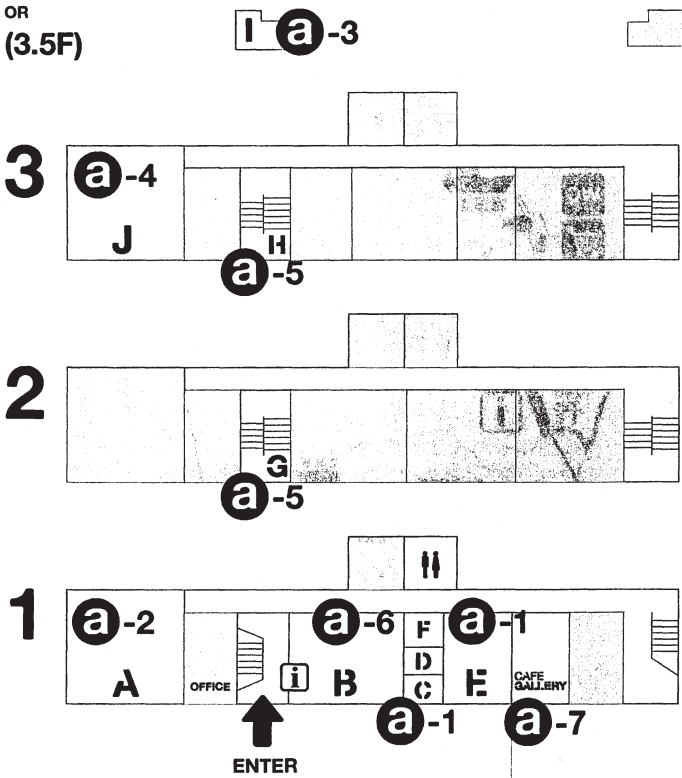
この関連企画は、尾道市事業の一環です。



ART BASE Floor Map

MOMOSHIMA

OR
(3.5F)



！グレー部分は、改装中及びスタッフ室となっておりますので、入場できません。

SPECIAL EXHIBITION

柳幸典 × 原口典之

a-1 柳幸典
YANAGI Yukinori

NI ワンダリング・ミッキー
ドラム缶、車、スチール・フレーム、スチール・メッシュ、
スチール・パイプ、ダクト・ホース、ガソリン他

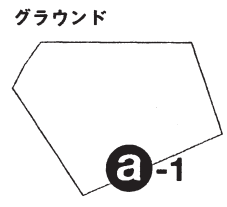
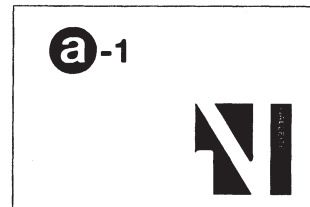
ART BASE C ヒノマル・イルミネーション
ネオン管、電球、鏡、真鍮、着色したスチール

ART BASE E ユーラシア
蝋、着色した砂、プラスチックボックス、プラスチックチューブ、
プラスチックパイプ

グラウンド **♪ ティエラ・ヌエストラ？**
アクリル布に染色

a-2 原口典之
HARAGUCHI Noriyuki

ART BASE A 物性
鉄とオイル



OPENING EXHIBITION

UTOPIA — 何処にもない場所 —

a-3 岩崎貴宏
IWASAKI Takahiro

ART BASE I

a-4 Collectif_fact
コレクティブ・ファクト

ART BASE J

a-5 下道基行
SHITAMICHI Motoyuki

ART BASE GH

アウト・オブ・ディスオーダー (万物流転)
タオル、綿、髪の毛

窓から見える景色がガラスケースの中に真白いジオラマとしてミラーリングされている。医療用のタオル、綿といった治療の為に日常素材で見立てた山肌には、髪の毛で作られた精巧な鉄塔やクレーンが立ち上がる。素材とスケールの精巧な対比は、壊れやすい風景を視覚化させている。

百島、またはある島の可能性
映像 (13分45秒)

百島滞在を経て制作された14分の映像作品。スイス出身の2人組の彼らは、10日間にわたって島内をくまなく撮影した。時折島民の姿が映るごく日常的なカットが、さまざまな古典文学や映画から抜き出されて編集されたナレーションによって、ひとつの物語へと導かれてゆく。

Connection/ つなぐもの
インクジェットプリント、木、鉄

階段踊り場の2つのスペースを使った写真インスタレーション。震災後に東北を駆け巡って撮影し始めたという用水路に架けられた木の板やブロックでできた“橋のようなもの”は、百島でも継続して撮影された。本展では、写真と同時にそれらの板きれ数点が、発掘された遺物のように鑑賞の機会を与えられている。

a-6 槇原泰介
MAKIHARA Taisuke

ART BASE BF

a-7 吉田夏奈
YOSHIDA Kana

ART BASE CAFE GALLERY

b 水口鉄人
MIZUGUCHI Tetsuto

防波堤

A landscape/ Fig1, Fig6
ゴミ箱、ポンプ、ホース、水、鈴、キャンバス

床を這う水流ホースやゴミ箱、ドローイングを複合させたインスタレーションは構成要素それぞれを風景の断片として捉えることができる。自然景観の参照、都市生活で目にする既製品、公共物などの直接的転用によって、それらは新たな空間での物や事の役割を担い、再びこの場に風景を形づくる。

十一眼レフちんかかと予期せぬハプニング
クレヨン、オイルパステル、水彩絵具

緑が生い茂る夏の山道を歩き、肌寒い秋の海に潜った作家は、全身で捉えた百島の風景の断片を繋ぎ合わせ、一望できるはずのない架空の風景を描写している。目に見えない気配や、身を震わせた感覚がクレヨンの筆跡に残り、写真では表されないもう一つの百島を眺望できる。

路上山水図—百島桃源郷長巻
壁の汚れ

防波堤に描かれた水墨画。実は海の潮汐により長年付着した壁の汚れを削り落すことによって描かれている。百島桃源郷と題されたその作品は、作家が長期滞在の中で出会った百島の景色、人、辺りの状況を取り込みながら、永遠の世界へと導くかのように続いてゆく。

c 泉山朗士
IZUMIYAMA Road

西林寺

d 諫山元貴
ISAYAMA Genki

公民館

e もうひとり
MOUTHIRI

旧赤松医院とその一帯
(空き地・旧醤油蔵跡地)

百島の話
映像 (18分23秒)

百島に生まれ、百島に暮らす6人が「百島」を語る映像作品。故郷の心地良さや懐かしさが行き来する心境や、風土の移り変わりに思いを馳せる声の調子と表情が、西林寺の堂内に浮かび上がる。文章では残すことのできない一つの記録を生み出すと同時に、未来の生き方を問いかける。

遮光器土偶
ビデオインスタレーション

粘土で制作された土偶が水中でゆっくりと溶けだし、崩壊していく様子を映し出した映像インスタレーション。展示場所として選ばれた旧公民館という歴史ある空間、そこに刻みこまれた時間と寄り添うかのように起用された縄文時代の土偶という普遍的モチーフに、無常の時間軸を与えている。

Wind-ow Momoshima
ミクストメディア

50年前に閉じた病院、家跡の空き地、製造を終えた醤油蔵に仕掛けを施している。静かに朽ちていく病院の記憶は青色の背景によって露呈し、地面に埋まる窓の内部は隣家の台所へと繋がり、醤油蔵からは時折煙が上る。一見、何も変わらない風景に過去の時間が呼び戻されている。

資料③ ART BASE 百島 2013-2014 年企画展資料

(2013 年 10 月～11 月)



100 Ideas on Tomorrow's Island — What art can do for a better society —

[第1期] 2013.10.12 sat - 11.30 sat

100のアイデア、あしたの島

—アートはより良い社会のために何ができるのか?—

アートが未来を

Curator: Anja ... Julian Hummel, Sylbes Kim, Jun Masuda, MOON, NI, Nicolas Pelzer, Jun Satoh, Ma ...
Tomorrow's House | Jean-Luc Vilmouth | Raul Walch | Kana Yoshida (Permanent Exhibitor: Noriyuki Haraguchi, Takahiro Iwasaki, Tetsu ...)

ART BASE
MOMOSHIMA

[第1期] 2013.10.12 sat - 11.30 sat

100 Ideas on Tomorrow's Island

— What art can do for a better society —



100のアイデア
あしたの島。

—アートはより良い社会のために何ができるのか?—

AA あしたの家 アンヤ・ケレック、シュテファン・ルンメル | 佐藤肇 | ジャンニリュック・ウィルムート | シルビー・キム 杉井隼人 都築透 ニコラス・ヘルツァー
古堅太郎 増田純 マルクス清水 | もうひとり* | 吉田夏奈* | ラウル・ハルチ *2012年から継続作品制作 [常設展] 岩崎貴宏 原口典之 水口鉄人 柳幸典

期：2013年10月12日(土)～11月30日(土)
 催時間：10:00～17:00
 場：火曜日
 場：ART BASE 百島、島内各所
 料：800円

コーディネーター/ディレクター：榊原典
 担当：古賀太郎
 場：ART BASE 百島
 産：広島アートプロジェクト実行委員会、広島市立大学

成：平成25年度文化庁大学を活用した文化芸術推進事業(文)
 道市民活動支援事業(活動育成部門)、広島県文化財団
 財団法人エネルギー文化・スポーツ財団、
 産：尾道市、尾道市教育委員会、百島地区社会福祉協議会
 力：百島地域の皆さん、一般財団法人エック東海財団、エブソン販売株式会社

ーニングパーティー

時：10月12日(土)13:00～
 場：ART BASE 百島
 金：1,300円(観覧料・1フード付き)
 要予約 電話またはメールにてお申し込み下さい (締め切り10月9日)
 tel: 0848-73-5105 email: info@artbasemomoshima.jp

泊情報

【夜】
 百島集落研修施設
 金：1名2,000円
 問い合わせ：www.momoshima-nouen.com
 ART BASE 島の開港(夜を見るために2泊)

百島北部の泊荘
 金：1泊3,000円
 問い合わせ：0120-111-878
 www.momoshima.net



＜尾道市内＞
 ▶バス 坂力浜
 アクセス：JR 福山駅から車で約30分
 住所：尾道市浦崎町大平本1344-2
 お問い合わせ：0848-24-0160

▶グリーンヒルホテル尾道
 アクセス：JR 尾道駅南口から徒歩約5分
 住所：尾道市東浦町9-3
 お問い合わせ：0848-36-6215
 www.nora-t-p-hotel.com

▶フンステル
 アクセス：JR 尾道駅より徒歩約15分
 住所：尾道市十四日町3-30
 お問い合わせ：0848-36-6215
 www.nora-t-p-hotel.com

＜空き家再生プロジェクト宿泊施設＞
 ▶ハクインションタカ尾道 島の風
 住所：尾道市土堂15-9
 料金：一泊6,000円～10,000円
 お問い合わせ：090-4890-8468

▶あなこのねとこ
 住所：尾道市土堂2-4-9
 料金：ドミトリ(相部屋)一泊2,500円
 ツループでの貸切り利用
 一人一泊3,300円～
 お問い合わせ：0848-36-1005

October 12 - November 30, 2013
 Open Hours: 10:00 - 17:00
 Closed: Tuesdays
 Venue: ART BASE MOMOSHIMA, sites throughout Momoshima
 Admission: ¥800

Producer/Director: Yukinari Yanagi
 Curatorial leader: Taro Furukata
 Manager: ART BASE MOMOSHIMA
 Organized by the Executive Committee of Hiroshima Art Project, Hiroshima City University

Supported by the Program For the Promotion of Culture and Art by Utilizing University for the fiscal year 2013, Onomichi Municipal Civic Engagement Support Program (The Department of Civic Engagement), Fukutake Foundation, Energia Culture and Sports Foundation
 Sponsored by Onomichi City, Onomichi City Board of Education, Momoshima Council of Social Welfare
 Cooperate with Momoshima's citizens, Puegu Satoumi Council, Epson Sales Japan Corporation

Opening Party

Saturday, October 12, 13:00-
 Venue: ART BASE MOMOSHIMA
 Admission: ¥1,300 (including exhibition & one food ticket)
 Reservations are required for entry. Please call: +81(0)848-73-5105 or email: info@artbasemomoshima.jp (by October 9)

アクセス

- 列車
 - 【東京方面より】山陽新幹線福山駅下車→在来線福山駅・約20分→尾道駅(尾道駅・トターミナル) 高速船またはフェリー・約30-40分・福山港(百島)
 - 【九州方面より】山陽新幹線三原駅下車→在来線三原駅・約10分→尾道駅(尾道駅・トターミナル) 高速船またはフェリー・約30-40分・福山港(百島)
 - 車
 - 【東京方面より】山陽自動車道福山西IC→松浜道路(福山方面)・約1分→早通48号線・約3分→尾道47号線・約15分→国道309号線・約10分→常石港 高速船またはフェリー・約10分→福山港(百島)
 - 【九州方面より】山陽自動車道尾道IC→早通184号線・約20分→国道2号線(海沿い)・約10分→尾道大橋・約3分→早通377号線・約10分→歌津フェリー・約20分→福山港(百島)
 - 【福山西ICで降りていくとき常石港から車に乗ります。
 - 【西国方面より】しまなみ街道向島IC→早通317号線・約10分→早通377号線・約10分→歌津フェリー・約20分→福山港(百島)
 - 島内には駐車場がございます。 歌津、または常石港に駐車の上、車島下とい。各港に無料駐車場があります。
 - 飛行機
 - 広島空港 リムジンバス・約40分→三原駅・約10分→尾道駅(尾道駅・トターミナル) 高速船またはフェリー・約30-40分→福山港(百島)
 - 高速バス(広島 尾道)
 - 広島バスセンター 高速バス・約90分→尾道駅前(尾道駅・トターミナル) 高速船またはフェリー・約30-40分→福山港(百島)
- 船の時刻・料金サイト www.onomichi.ed.jp/momoshima/jfune.html
 尾道港発→福田港の船発：6:55 福出発→尾道港迄の船終：18:36

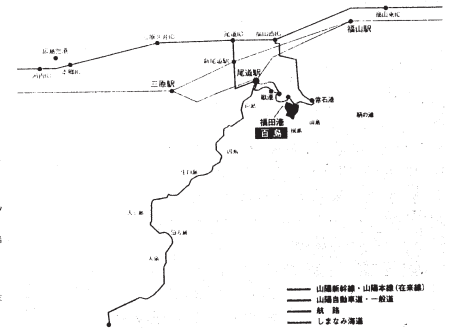
100のアイデア
 島内の日常から生まれたアイデアの一部をご紹介します

◎百島一周サイクリングコース
 自転車に乗って、百島の様々な場所に設置された作品と瀬戸内の風景を鑑賞することができます。福田港・ART BASE 百島の二カ所で用意されているレンタサイクルは、来場者の方に使用していただくことができます。

◎旗正丸
 尾道埠頭ターミナルに瀬戸内をかたどった大きなハレットテーブル(旗正丸)を展示しています。これは、一昨年の台風により亡くなられた旗手正守さんのご家族の方からの寄付による尾道市との共同制作です。自家用の船「旗正丸」で百島の救急患者搬送に尽力した故人の思いを表現したテーブルです。

◎百島八十八箇所巡り
 百島の至る所で見かけるお地蔵さん。四国お遍路のように百島にも八十八箇所置かれているのでは?という発想から始まったプロジェクトです。島民に愛され大切にされている様子は、日本のなつかしい原風景を思い起こさせます。フチ八十八箇所巡りはいかがでしょうか。

◎ももしまふうりん
 島民の方々の交流から生まれた作品です。誰も使うことの無くなった湯のみに、着物の端切れと貝殻をつりつけています。淡しげな首色を島の中に響かせる「ももしまふうりん」は、ART BASE 百島のショップにて販売します。

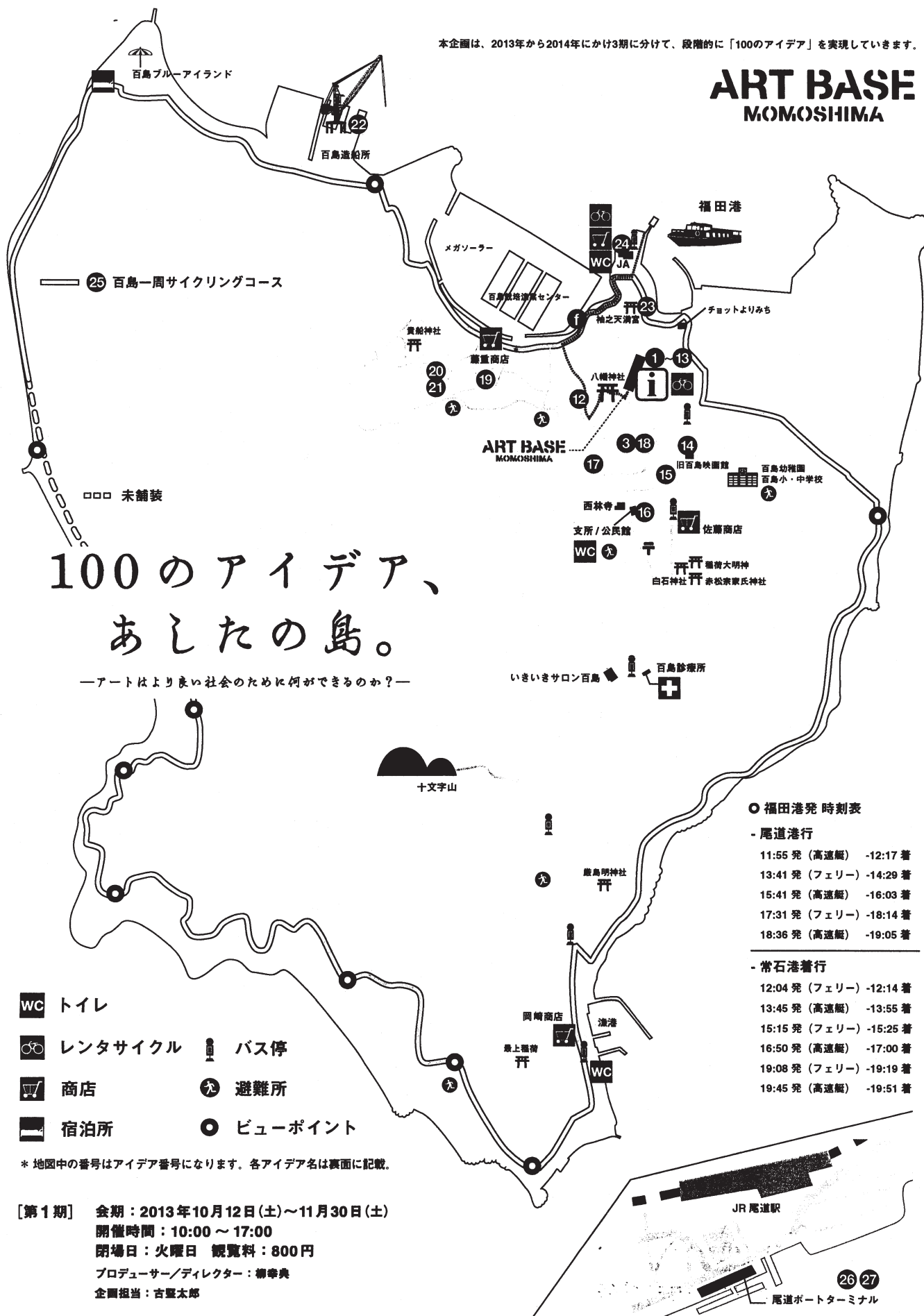


お問い合わせ
 ART BASE 百島 〒722-0061 広島県尾道市百島町1440
 tel / fax: 0848-73-5105 email: info@artbasemomoshima.jp
 情報は随時ホームページで更新します www.artbasemomoshima.jp



本企画は、2013年から2014年にかけて3期に分けて、段階的に「100のアイデア」を実現していきます。

ART BASE MOMOSHIMA



100のアイデア、あしたの島。

—アートはよりよい社会のために何ができるのか?—

○ 福田港発 時刻表

- 尾道港行

11:55 発 (高速艇) -12:17 着
 13:41 発 (フェリー) -14:29 着
 15:41 発 (高速艇) -16:03 着
 17:31 発 (フェリー) -18:14 着
 18:36 発 (高速艇) -19:05 着

- 常石港着行

12:04 発 (フェリー) -12:14 着
 13:45 発 (高速艇) -13:55 着
 15:15 発 (フェリー) -15:25 着
 16:50 発 (高速艇) -17:00 着
 19:08 発 (フェリー) -19:19 着
 19:45 発 (高速艇) -19:51 着

WC トイレ

🚲 レンタサイクル

🚌 バス停

🛒 商店

🐕 遊難所

🏠 宿泊所

📍 ビューポイント

* 地図中の番号はアイデア番号になります。各アイデア名は裏面に記載。

[第1期] 会期：2013年10月12日(土)～11月30日(土)

開催時間：10:00～17:00

閉場日：火曜日 観覧料：800円

プロデューサー/ディレクター：柳幸典

企画担当：古聖太郎

〒722-0061 広島県尾道市百島町1440

TEL / FAX: 0848-73-5105

E-MAIL: info@artbasemomoshima.jp

WEB: www.artbasemomoshima.jp

「アートベース百島に対する百島住民の意識調査」(事前事後調査の比較)

著者：中島正博・金谷信子・高橋広雅・瀧俊毅

発行：広島市立大学国際学部地域と芸術活動研究会

〒731-3194 広島市安佐南区大塚東3丁目4番1号

TEL: 082-830-1500 (代)

発行年月日：2014年5月30日

